

2. 沿革

本町の歴史は、古代日向の伝説に彩られています。日向国一之宮である都農神社は、日向で最も由緒ある神社であり、「続日本後記」に西暦 800 年代前半の事象として「都濃神」、「都濃皇神」の名が記されています。また、尾鈴山の伝説も古く、神体として信仰の対象とされています。さらに、明田地区などには古代の古墳として積石塚が 10 数基群在しており、九州では他に例を見ません。

莊園時代を経て、鎌倉時代から江戸時代に至る間は、土持氏、伊東氏、島津氏の所領となっており、1578 年には、大友宗麟と島津義久との戦いがあり、都農神社が焼失しています。江戸時代には高鍋藩に属しました。

廃藩置県後の県制の流動時期を経て、明治 16 年に宮崎県児湯郡に入り、同 22 年に都農村、大正 9 年に都農町となりました。そして、令和 2 年 8 月 1 日に町制施行 100 周年という大きな節目を迎えています。

このような豊かな歴史資源に恵まれ、本町には都農神社夏の祭、高鍋神楽、寺迫奴踊り、松原獅子、篠別府棒踊りなどの伝統的文化遺産が現代に息づいています。

[資料：第 6 次都農町長期総合計画（平成 29 年 3 月）]



都農神社



都農神社夏の祭の風景

2-2 自然条件

1. 地形・地質

○東に日向灘を臨み、西は尾鈴の山並みが連なり、西高東低の丘陵性台地による平坦地が広がる。

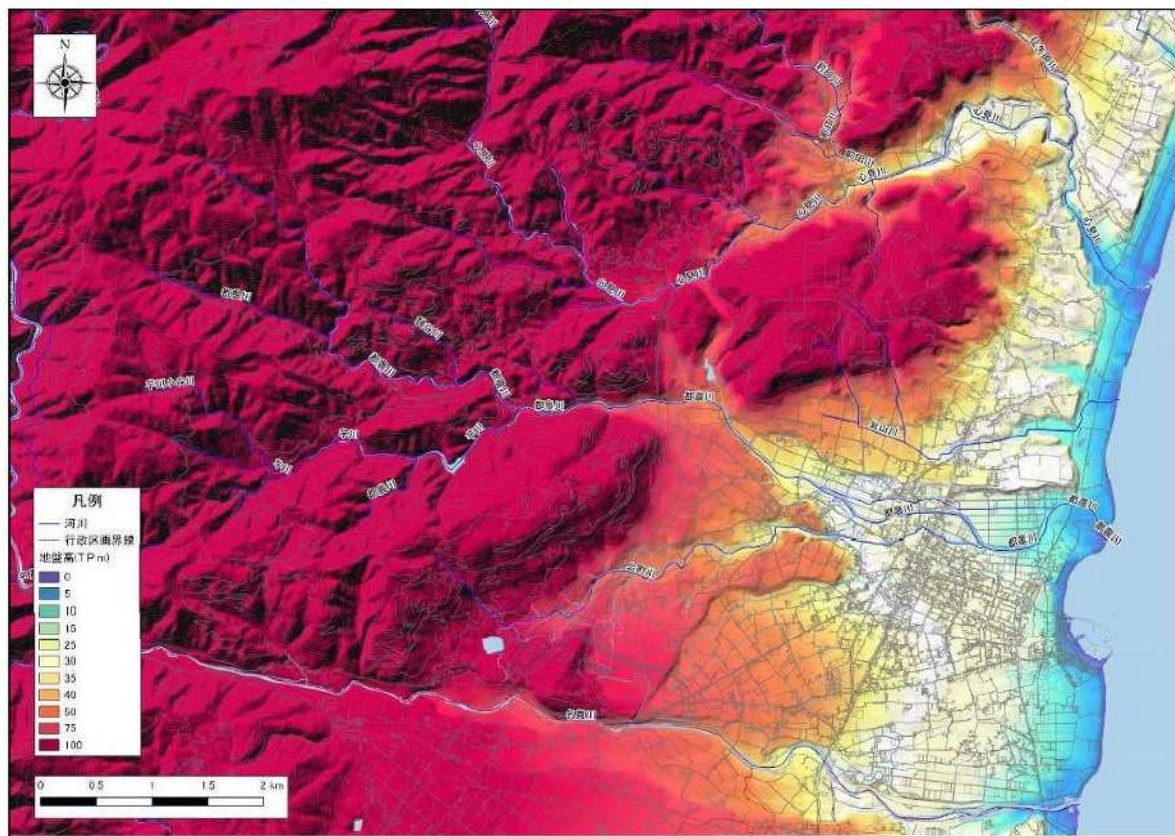
本町の東部は、日向灘に面し西部及び北部地域は尾鈴山系に連なっており、西方には尾鈴酸性岩類よりなる標高1,405.2mの尾鈴山がそびえています。その山地の東側には平坦な段丘地形が発達しており、日向灘との間で南から北へ幅を狭めながら、日向海岸平野の北端部を形成しています。

尾鈴山系に源を発するいくつかの中小河川があり、丘陵地や台地間を蛇行しながら流下し、急峻な河谷地や狭い沖積地を形成し日向灘に注いでいます。下流域は名貴川による扇状地が開け、流路に沿って沖積低地や河岸段丘を生じており、台地面は多少の起伏はあるものの、西高東低の緩い傾斜面となっています。名貴川及び都農川の河口部は、扇状三角州のような形で幾らか海岸に突き出し、単調な直線上の海岸に変化を与えています。

海岸沿いは、顕著な離水海岸崖が直線上に発達して段丘の縁を限っており、崖下には浜堤状の盛り上がりで縁取られた、幅狭い離水海浜が細長く続いています。

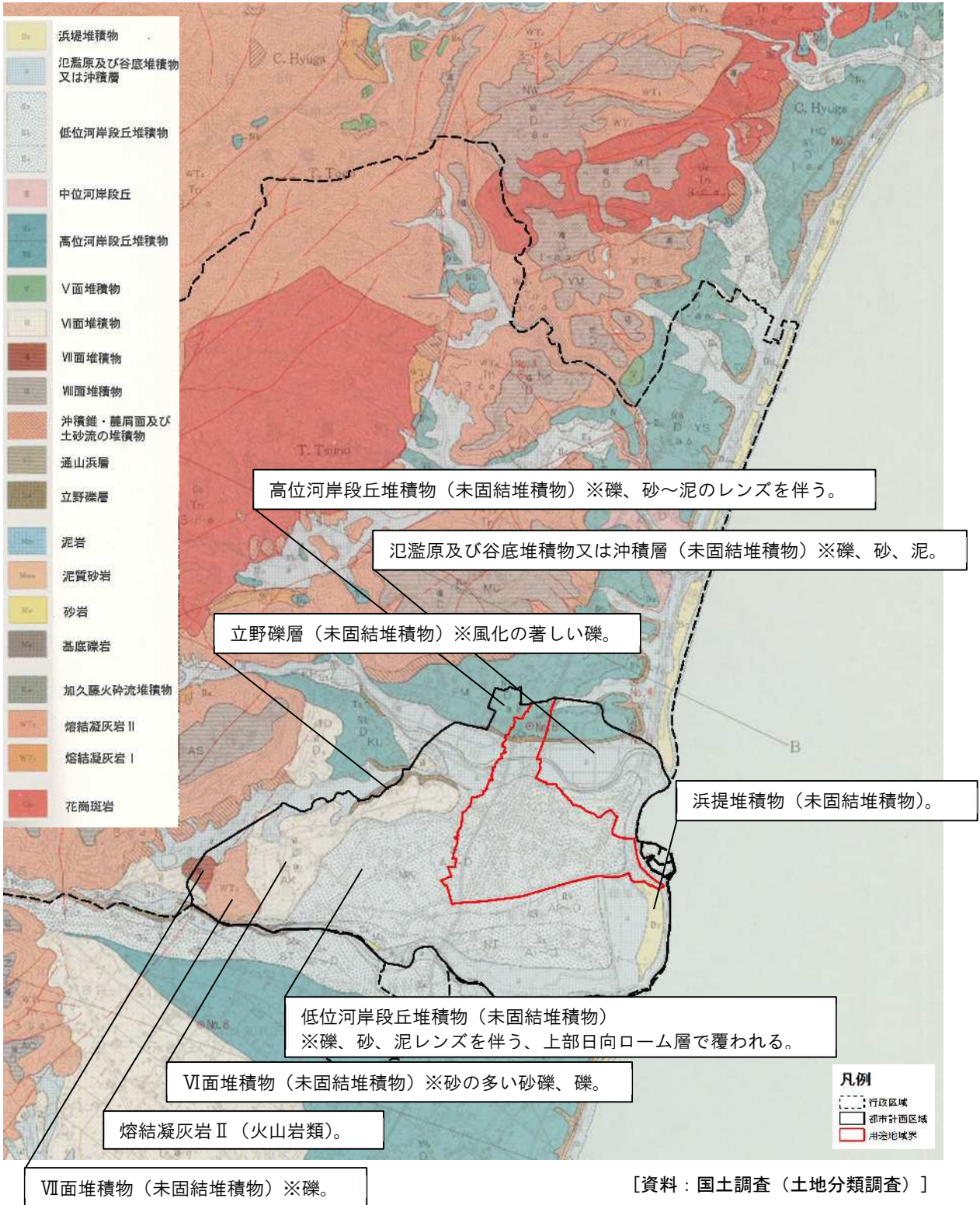
このような地形・地質の中で、本町は比較的水害に強い状況にあります。

■地形図



[資料：平成31年度第103号都農町浸水対策調査業務委託報告書]

■表層地質図

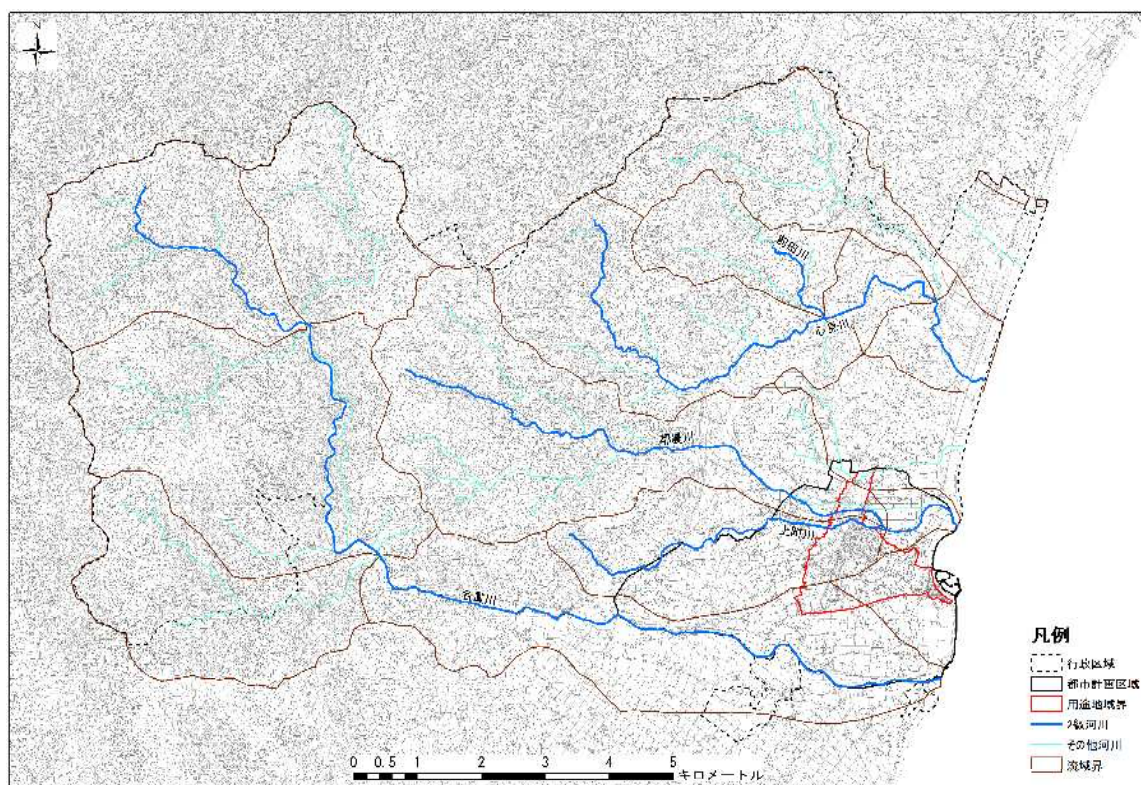


2. 水系

○2級河川の名貫川、都農川、心見川が東流し日向灘に注ぎ込んでいる。

尾鈴連山には、日本の滝百選に選ばれた矢研の滝をはじめ、大小30余の尾鈴山瀑布群が分布しており、ここを源流とする名貫川、都農川、心見川の3河川が東流しながら都農の台地を潤し、日向灘に注ぎ込んでいます。

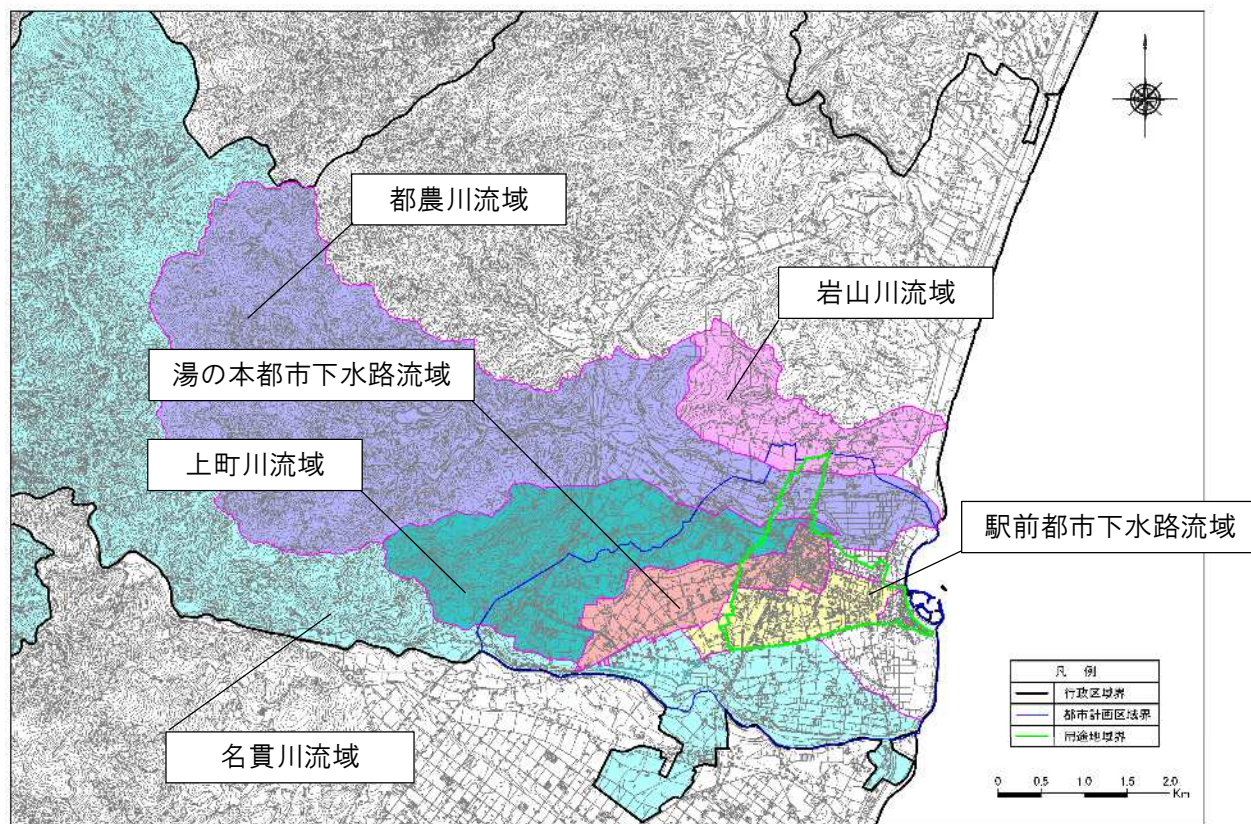
■水系図



[資料：国土数値情報]

都市計画区域内の雨水は、都農川、岩山川、上町川、名貫川、湯の本都市下水路、駅前都市下水路の流域となっています。

■流域図



[資料：平成31年度第103号都農町浸水対策調査業務委託報告書及び国土数値情報より作成]

3. 気象

- 年間日照時間が多く温暖な気候である。
- 黒潮と頻繁に来襲する台風の影響で年間降雨量が多い。

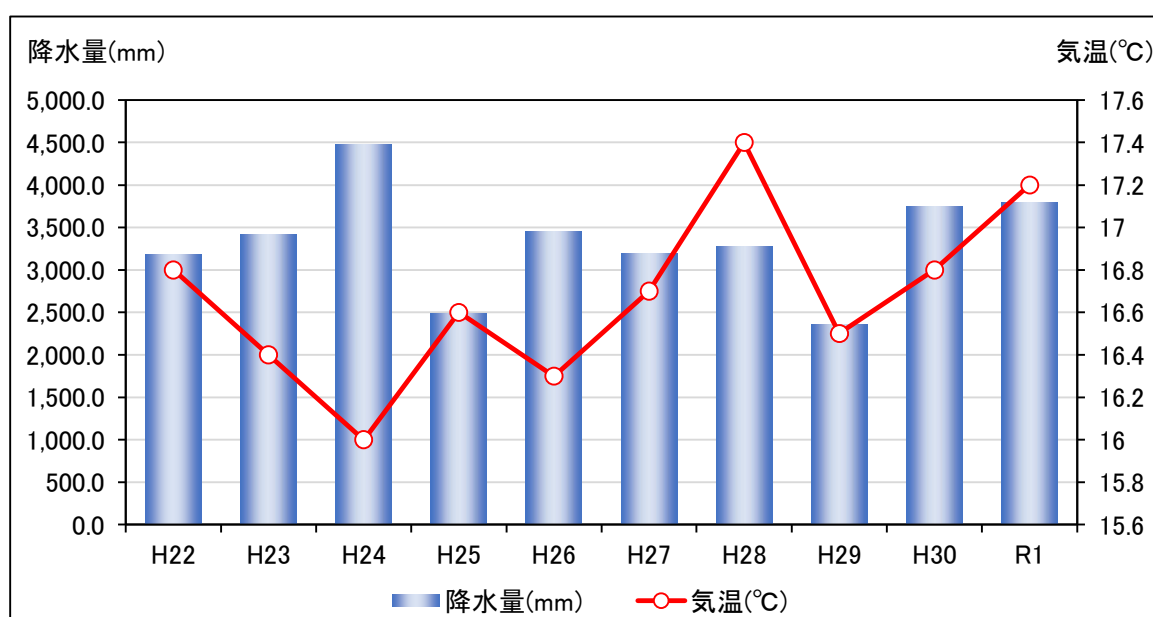
宮崎県は、年間日照時間が全国でも上位にあり、平均気温も温暖な気候です。

一方、黒潮と頻繁に来襲する台風に強く影響される温暖多雨な気候で、本町の最高気温は令和元年では35.3℃、最低気温は-3.2℃、年間の平均気温は17.2℃となっています。

晴天日数も多いですが降雨量も多く、年間の総雨量は令和元年で3,790.5mmです。

■気温・降水量の推移

年	気温(℃)			降水量(mm)
	平均	最高	最低	
H22	16.8	35.7	-4.4	3,185.0
H23	16.4	36.0	-5.7	3,422.0
H24	16.0	34.0	-5.2	4,469.5
H25	16.6	38.9	-4.9	2,484.0
H26	16.3	35.4	-3.0	3,450.0
H27	16.7	35.0	-4.1	3,196.0
H28	17.4	35.9	-4.1	3,281.0
H29	16.5	37.0	-3.9	2,353.0
H30	16.8	34.8	-7.1	3,752.0
R1	17.2	35.3	-3.2	3,790.5



[資料：気象庁 HP]

※都農観測所では降水量のみ観測

※気温は日向観測所の値を使用

2-3 人口指標

1. 人口、世帯数の推移

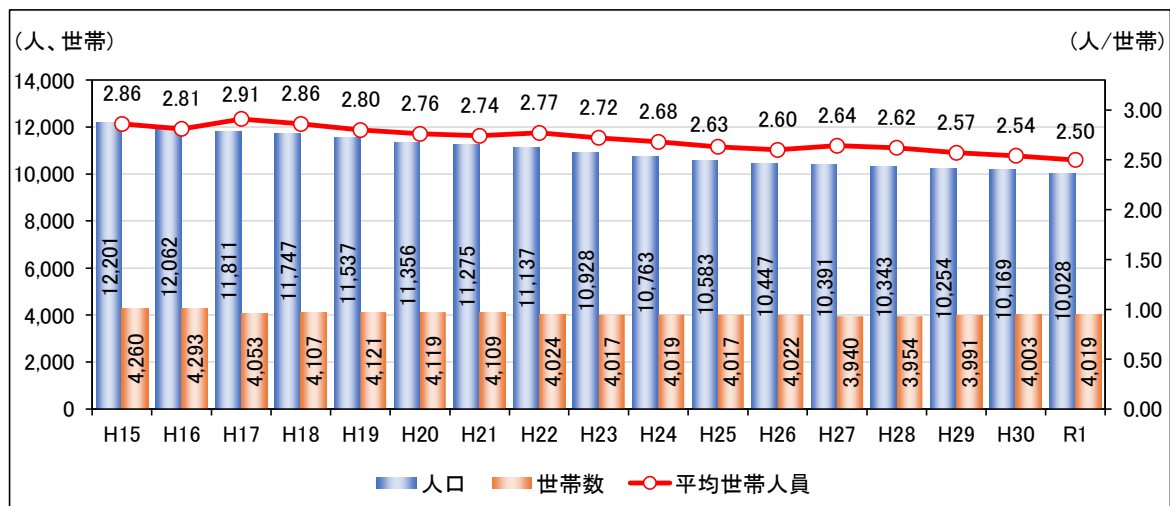
○人口は減少傾向、世帯数は横ばい傾向、世帯規模は縮小。

本町の人口は昭和30年以降減少傾向にあり、令和元年現在、本町の人口は10,028人と減少傾向で推移しており、世帯数は4,019世帯と概ね横ばいで推移しています。

なお、1世帯あたり平均世帯人員は、平成15年の2.86人/世帯から令和元年には2.50人/世帯と減少傾向にあり、世帯規模が縮小しています。

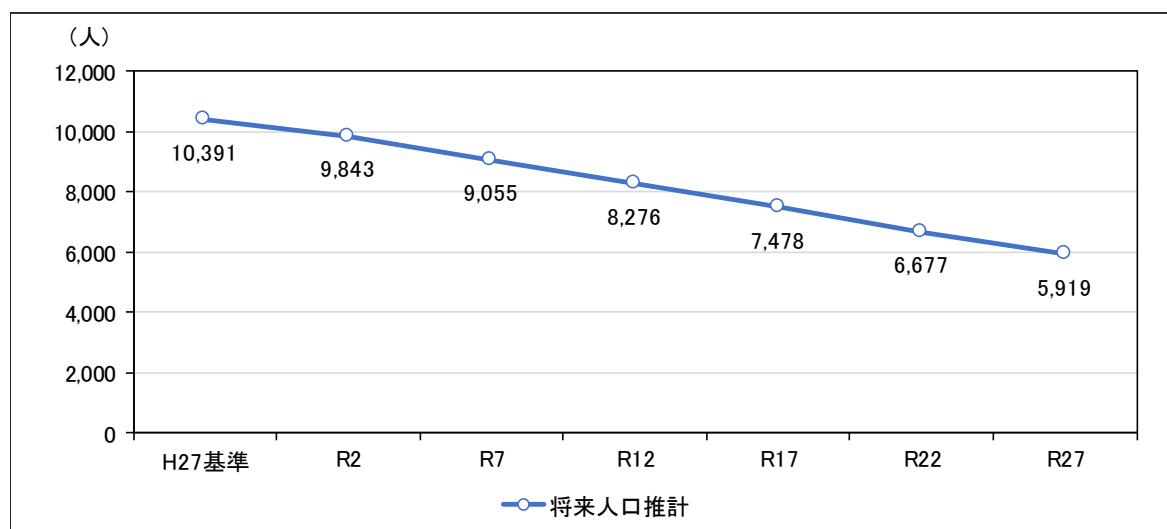
また、将来人口推計では、今後も人口は減少し、令和27年には約5,900人になると予測されています。

■人口・世帯数の推移



[資料：宮崎県現住人口調査]

■将来人口の推移



[資料：国立社会保障・人口問題研究所]

2. 人口動態（自然動態、社会動態）

○自然動態、社会動態ともに減少状態。

平成15年から令和元年における人口動態をみると、各年で人口増減はマイナスであり、平成15年から令和元年の推移でも減少状態が続いています。

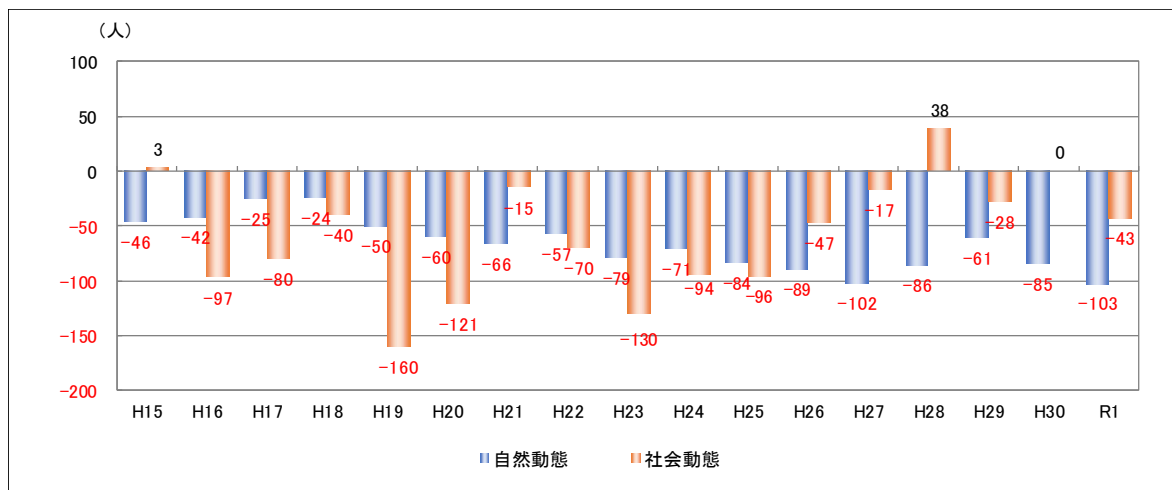
自然動態と社会動態をそれぞれみると、自然動態の減少状態に対して、社会動態は平成26年以降、転出者数の減少により減少状態が抑制されています。

■人口動態状況

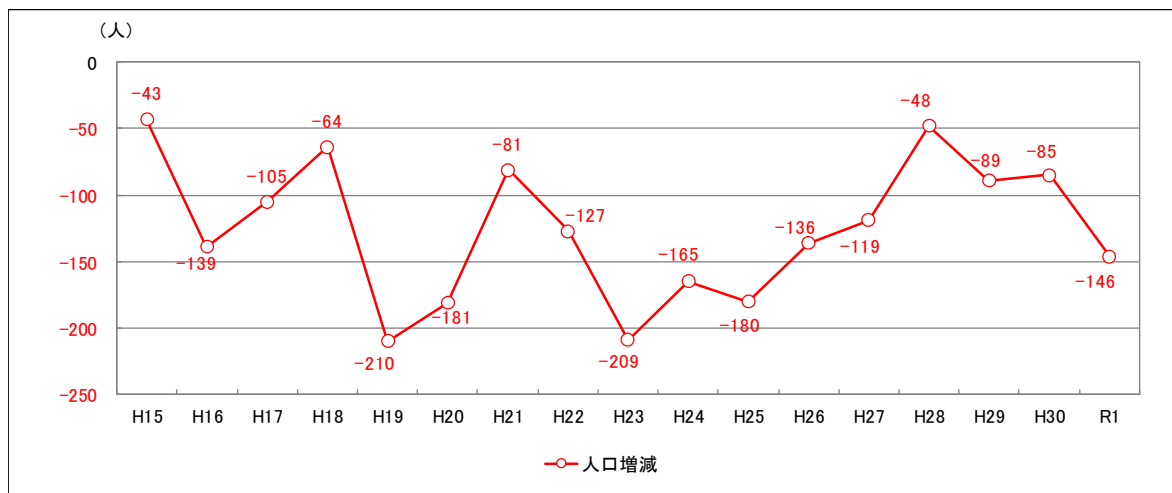
		H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
自然動態	出生数	87	83	98	106	90	76	78	90	78	73	75	78	84	71	77	80	71
	死亡者数	133	125	123	130	140	136	144	147	157	144	159	167	186	157	138	165	174
	増減	-46	-42	-25	-24	-50	-60	-66	-57	-79	-71	-84	-89	-102	-86	-61	-85	-103
社会動態	転入者数	464	365	381	394	329	362	360	333	321	308	306	289	304	347	313	295	306
	転出者数	461	462	461	434	489	483	375	403	451	402	402	336	321	309	341	295	349
	増減	3	-97	-80	-40	-160	-121	-15	-70	-130	-94	-96	-47	-17	38	-28	0	-43
人口増減		-43	-139	-105	-64	-210	-181	-81	-127	-209	-165	-180	-136	-119	-48	-89	-85	-146

[資料：宮崎県現住人口調査]

■人口動態の推移



■人口増減の推移



[資料：宮崎県現住人口調査]

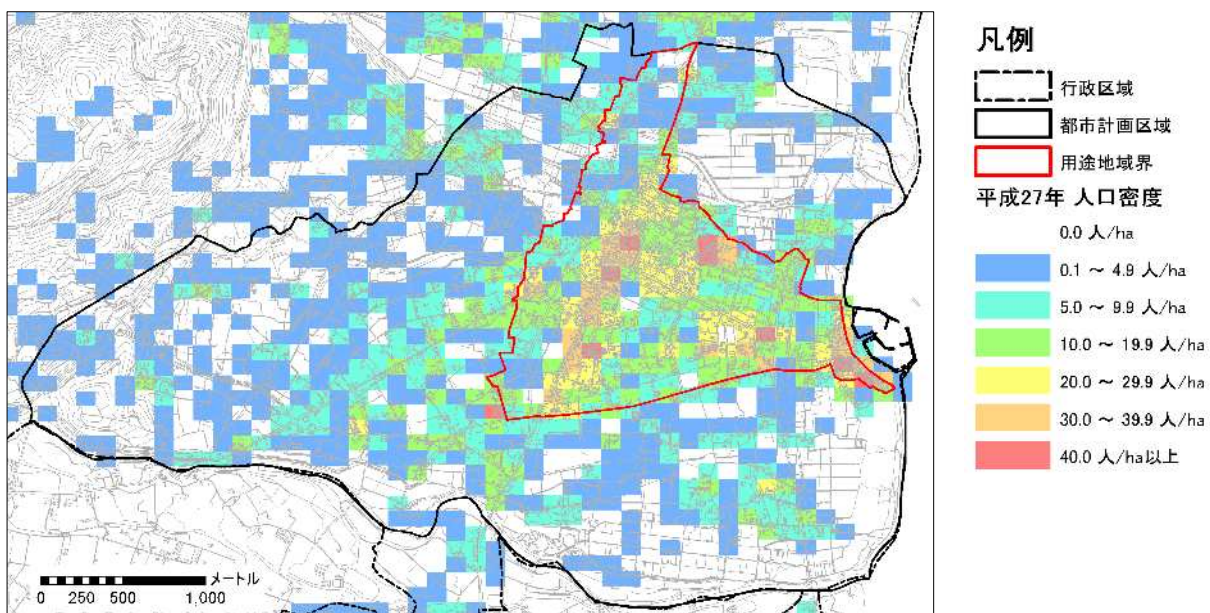
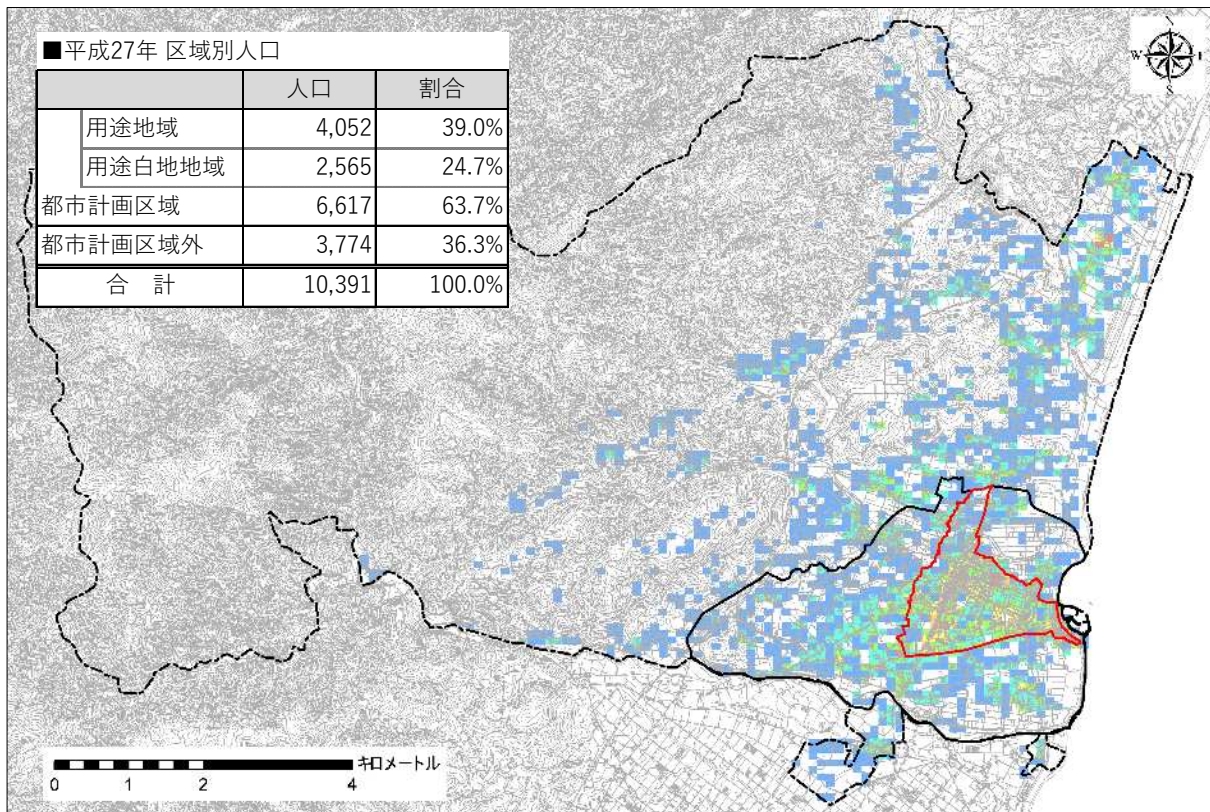
3. 人口の分布状況

- 用途地域内に約4割、都市計画区域内に約6割の人口が集中している。
- 旧国道10号沿いは沿道に人口が集中している。

町内平野部に全体的に人口が分布していますが、都市計画区域内に約6割、用途地域内に約4割の人口が集中しており、都市的土地利用の区域に人口が誘導されています。

また、本町の中心市街地の骨格道路である旧国道10号沿道に人口が集中しています。

■人口の分布図



[資料：国勢調査より作成]

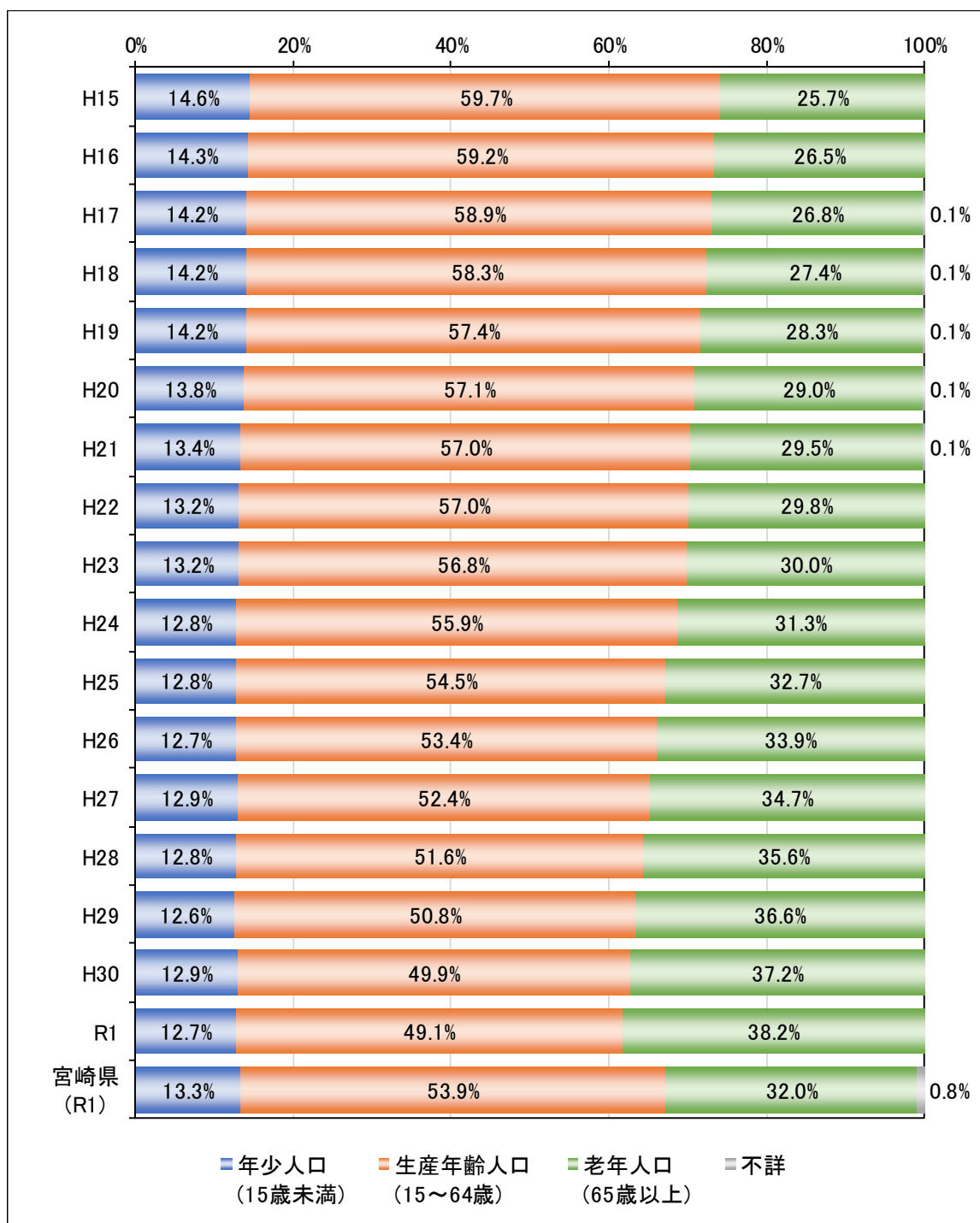
4. 年齢別人口の推移

○県平均と比べると高齢化の進行は早い。

年齢階層別の人口割合は、令和元年現在で年少人口が12.7%、生産年齢人口が49.1%、老年人口が38.2%となっています。

県平均と比べると、生産年齢人口の比率が低く、老年人口の比率が高くなっており、年々高齢化が進行しています。

■年齢別人口の推移



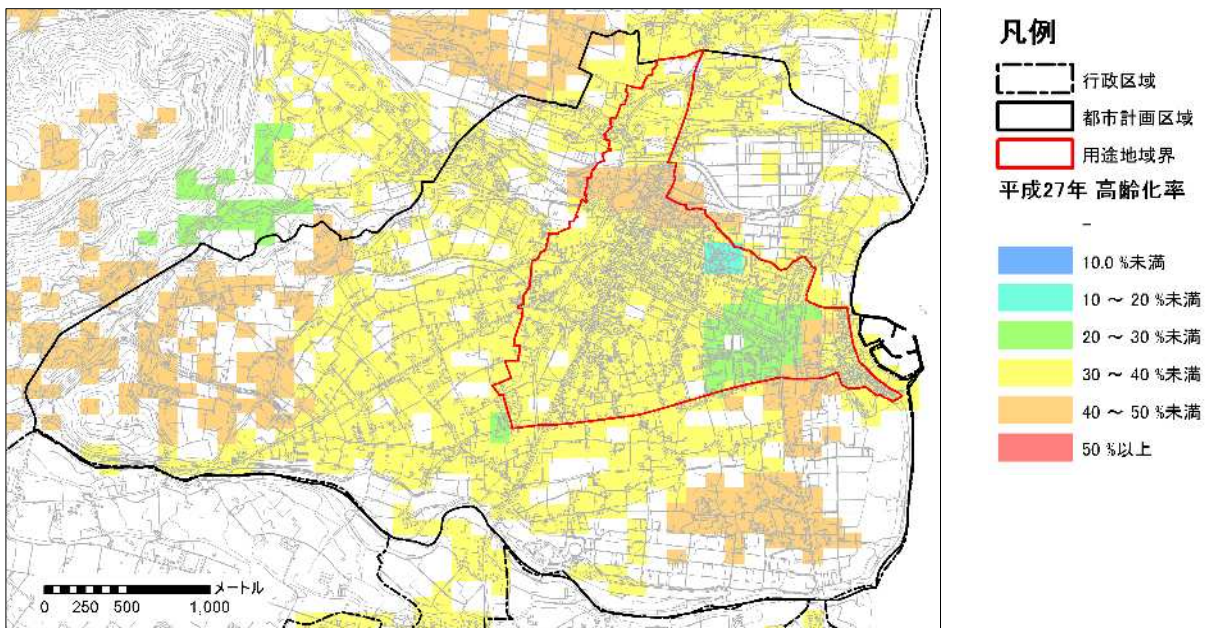
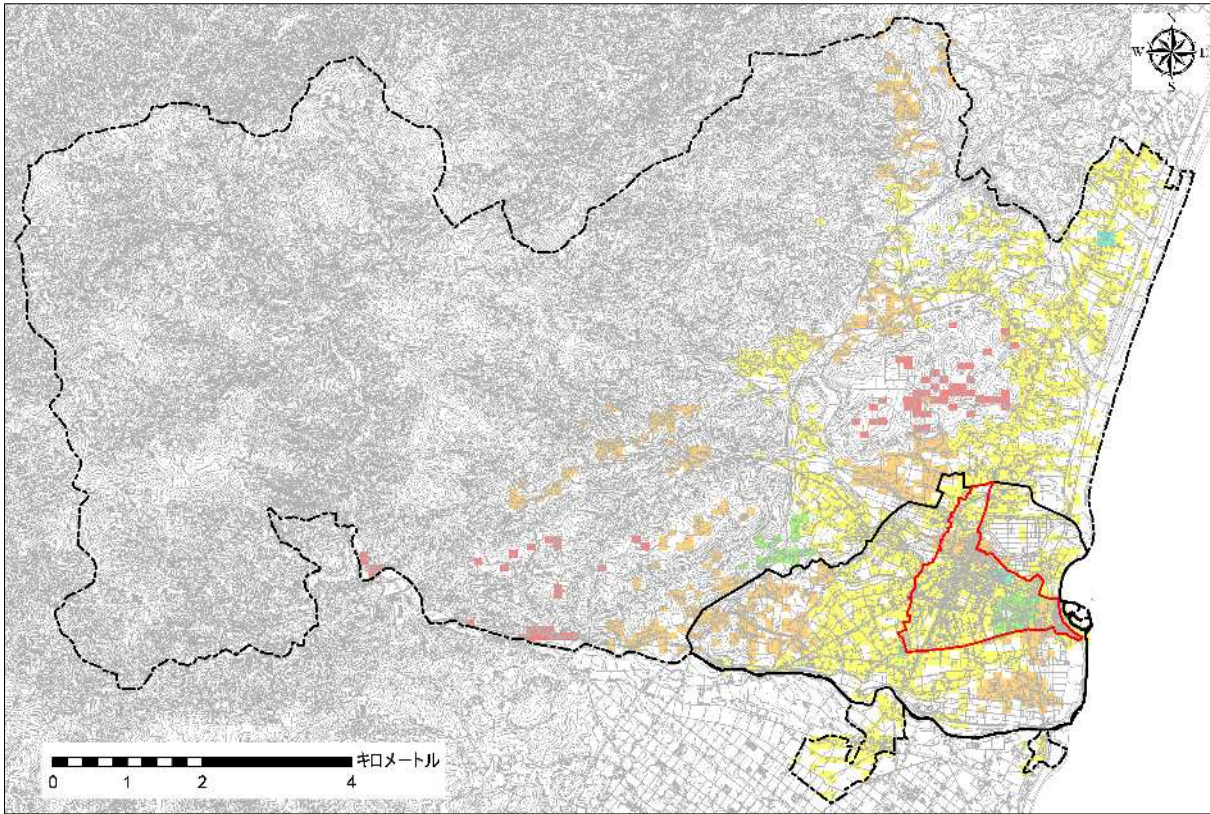
[資料：宮崎県現住人口調査]

5. 高齢人口の分布状況

- ほぼ全域で高齢化率 30%以上。
- 山間部に近い区域で高齢化率が高く、用途地域内は比較的高齢化率が低い。

町内は、ほぼ全域で高齢化率 30%以上となっています。高齢化率が高い区域は山間部に近い区域に分布している傾向にあり、用途地域内は高齢化率が低い傾向にあります。

■高齢化率



[資料：国勢調査より作成]

6. 流出・流入人口

○流出率、流入率は共に増加傾向で、どちらも川南町が最も多い。

通勤通学による流出流入率の推移をみると、共に増加傾向であり、平成27年現在で流出率が39.8%、流入率が27.8%となっています。

流出先及び流入元の市町村をみると、どちらも隣接している川南町が最も多くなっています。また、平成22年～27年の推移をみると、流出人口は減少、流入人口は増加しています。

■流出・流入人口の推移

		平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
常住地による就業・通学者数(人)		6,910	6,379	5,703	5,504
流出	就業・通学者数(人)	2,347	2,442	2,199	2,189
	流出率(%)	33.97	38.28	38.56	39.77
従業地による就業・通学者数(人)		5,931	5,216	4,748	4,602
流入	就業・通学者数(人)	1,368	1,279	1,214	1,281
	流入率(%)	23.07	24.52	25.57	27.84
従／常比率(%)		85.83	81.77	83.25	83.61

[資料：国勢調査]

■流出人口の推移

従業地		平成22年	平成27年	増減
1位	川南町	746	728	-18
2位	日向市	375	409	34
3位	高鍋町	386	368	-18
4位	宮崎市	330	314	-16
5位	西都市	50	80	30
6位	木城町	102	69	-33
7位	延岡市	53	55	2
7位	新富町	65	55	-10
9位	門川町	12	19	7
10位	国富町	2	11	9
その他の県内市町村		16	21	5
県外		62	60	-2

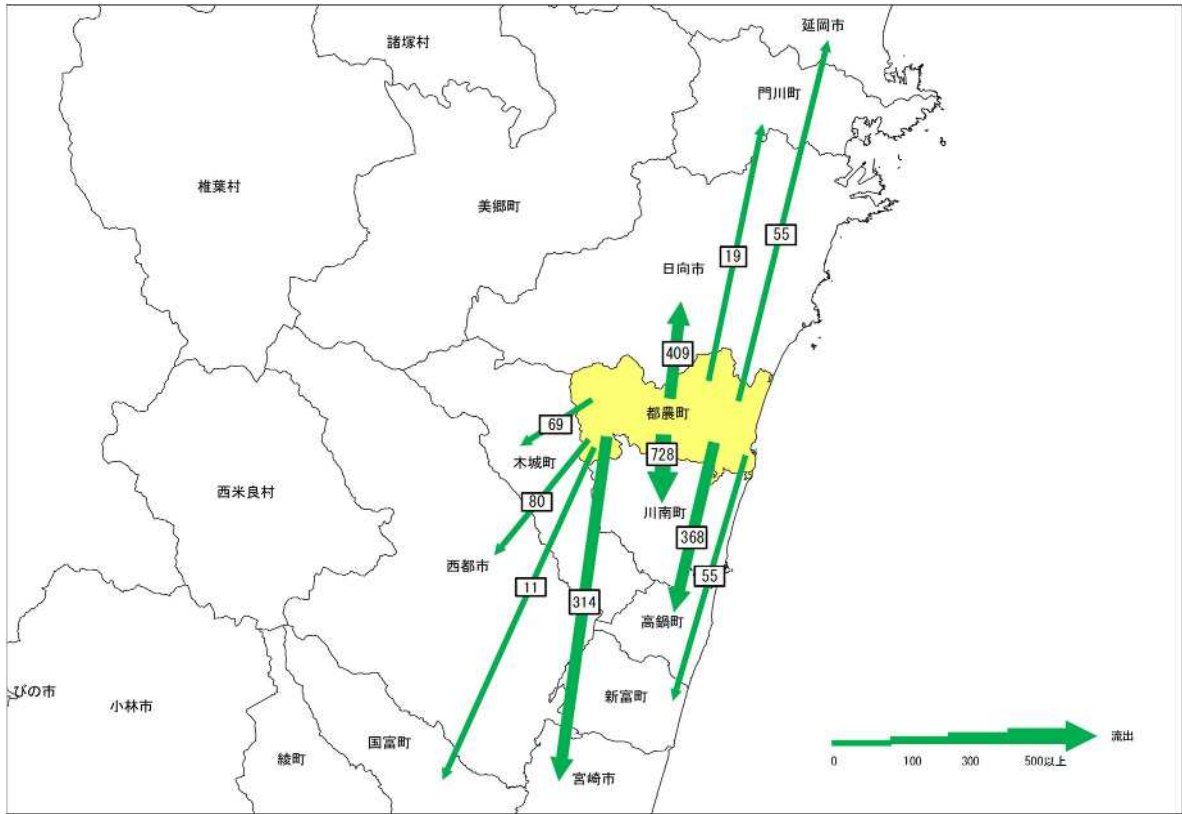
[資料：国勢調査]

■流入人口の推移

常住地		平成22年	平成27年	増減
1位	川南町	446	477	31
2位	日向市	263	281	18
3位	高鍋町	183	205	22
4位	宮崎市	125	131	6
5位	木城町	39	45	6
6位	新富町	42	38	-4
7位	西都市	37	37	0
8位	門川町	36	27	-9
9位	延岡市	31	26	-5
10位	国富町	1	4	3
その他の県内市町村		8	7	-1
県外		3	3	0

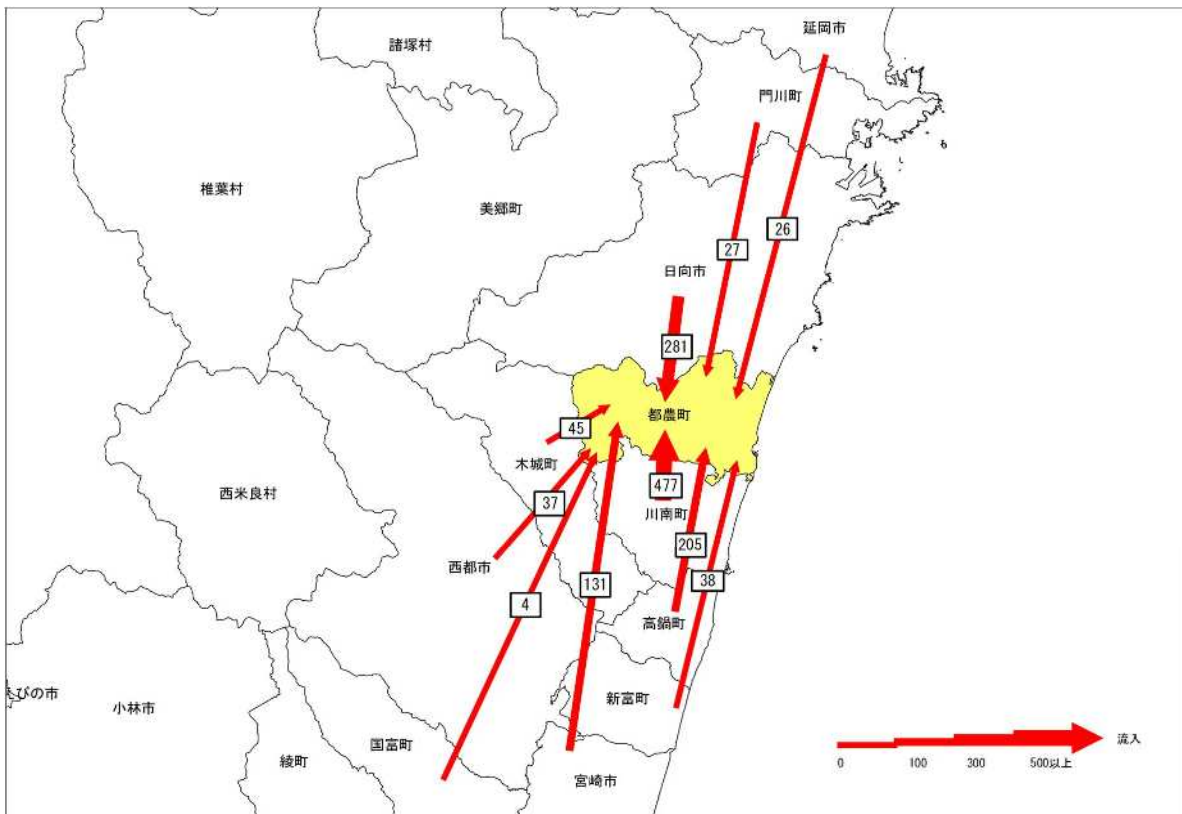
[資料：国勢調査]

■人口流出図 (H27)



[資料：国勢調査]

■人口流入図 (H27)



[資料：国勢調査]

2-4 産業指標

1. 産業別就業者数の推移

○第1次産業、第2次産業は減少傾向、第3次産業が増加傾向。

○平成27年の第1次産業、第2次産業の就業者の比率は、県平均を上回る。

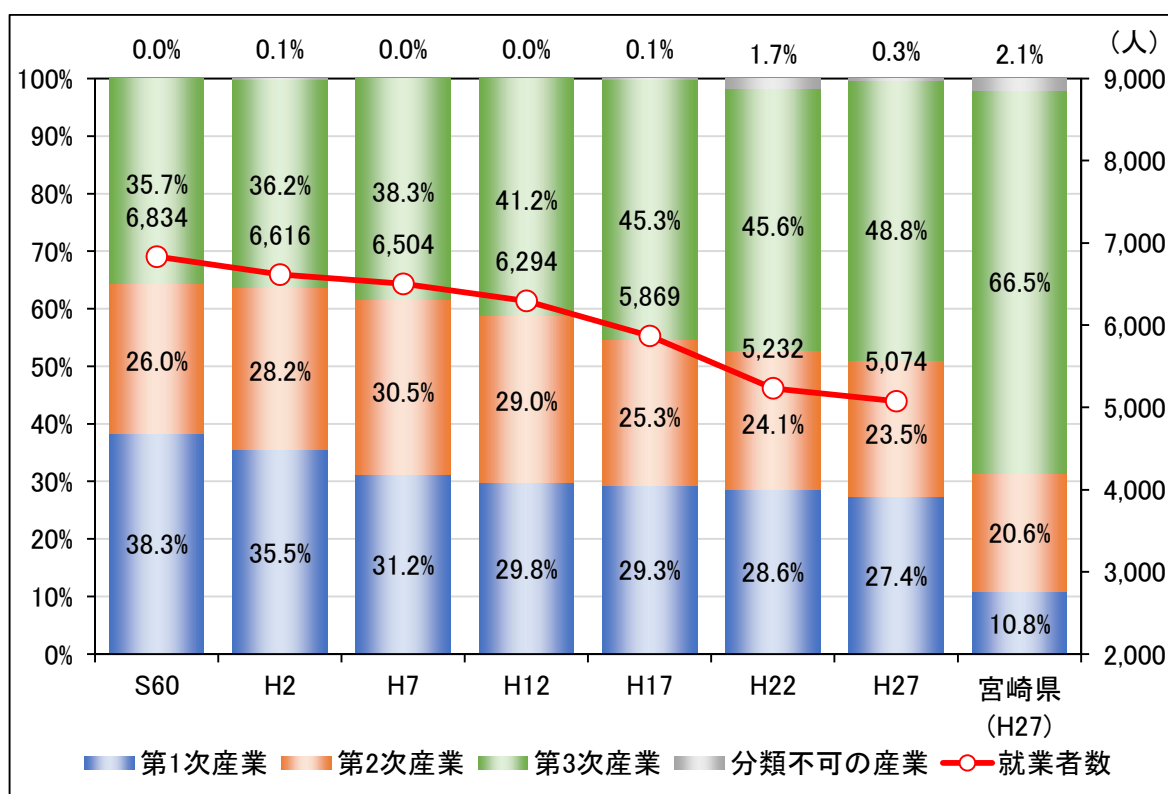
15歳以上の就業者数は、平成27年現在5,074人であり、減少傾向で推移しています。

産業別の内訳は、第1次産業が1,392人(27.4%)、第2次産業が1,194人(23.5%)、第3次産業が2,472人(48.8%)となっています。

本町は、農林漁業が盛んなまちであり、県平均と比べ第1次産業の占める比率がとて高く、農林漁業が本町の基幹産業であるといえます。

昭和60年以降の産業別就業者の推移は、第1次産業、第2次産業は減少傾向で推移し、第3次産業は増加傾向となっています。

■産業別就業者割合の推移



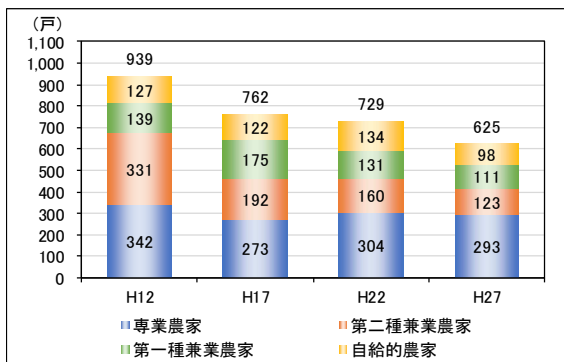
[資料：国勢調査]

2. 農業（農家数、耕地面積の推移）

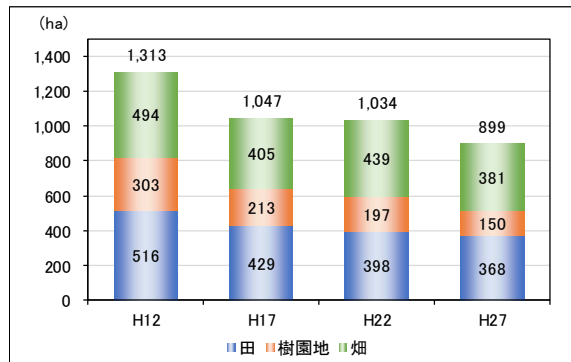
○農家数及び経営耕地面積は減少傾向。

本町の農家数は平成 12 年以降減少傾向にあり、平成 27 年現在、専業農家が 293 戸、第二種兼業農家が 123 戸、第一種兼業農家が 111 戸、自給的農家が 98 戸で合計が 625 戸となっています。また経営耕地面積も平成 12 年以降減少傾向にあり、平成 27 年現在、田が 368ha、樹園地が 150ha、畑が 381ha で合計が 899ha となっています。

■農家数の推移



■経営耕地面積の推移



[資料：農林業センサス]

3. 工業の推移

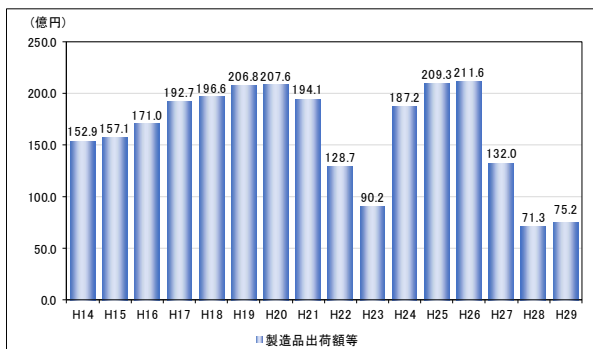
○製造品出荷額等は振れ幅が大きい。

○従業員数は平成 24 年以降増加傾向。

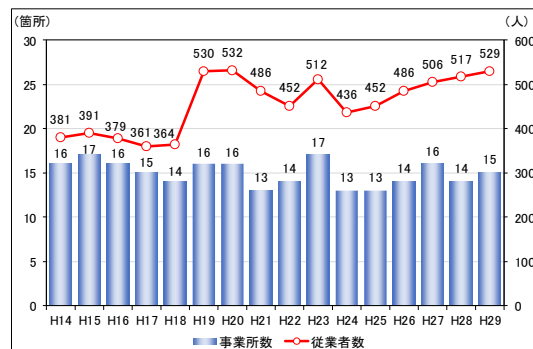
製造品出荷額等は増減を繰り返しながら平成 29 年現在、75.2 億円と近年では平成 28 年の 71.3 億円の次に低い値となっています。

事業所数は概ね横ばい、従業員数は製造品出荷額等同様、振れ幅が大きいですが、平成 24 年以降は増加傾向となっており、平成 29 年現在の事業所数は 15 箇所、従業員数は 529 人となっています。

■製造品出荷額等の推移



■事業所数・従業員数の推移



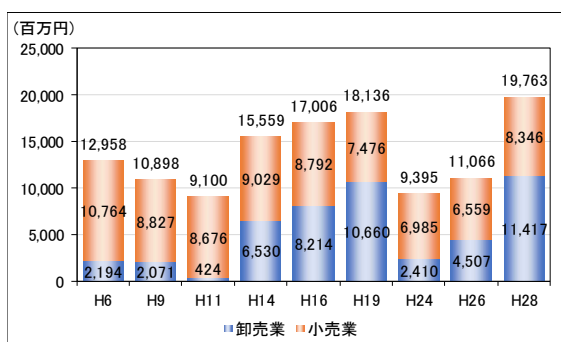
[資料：工業統計調査、経済センサス活動調査（H23, H27）]

4. 商業の推移

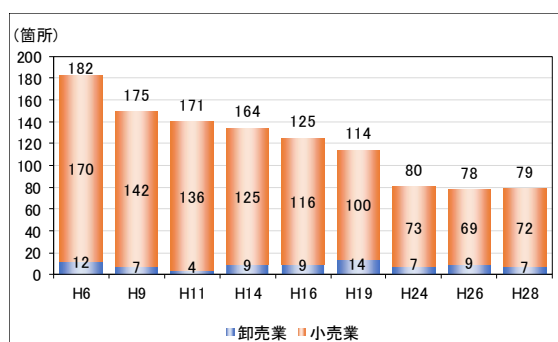
- 年間商品販売額は振れ幅が大きい。
- 事務所数及び従業者数は減少傾向。

年間商品販売額は増減を繰り返しながら平成28年現在、卸売業の年間商品販売額が11,417百万円、小売業が8,346百万円で、合計が19,763百万円と近年では最も高い値となっています。また、売り場面積は一定数を維持していますが、事業所数は平成6年以降減少傾向、従業者数も平成16年以降、増減はあるものの減少傾向にあります。

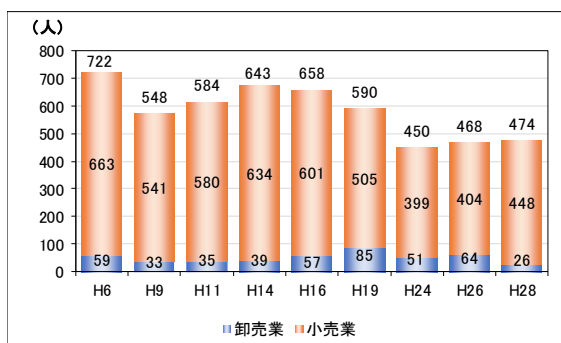
■年間商品販売額の推移



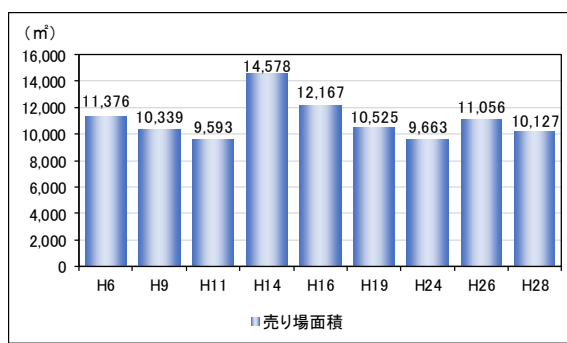
■事業所数の推移



■従業員数の推移



■売り場面積の推移



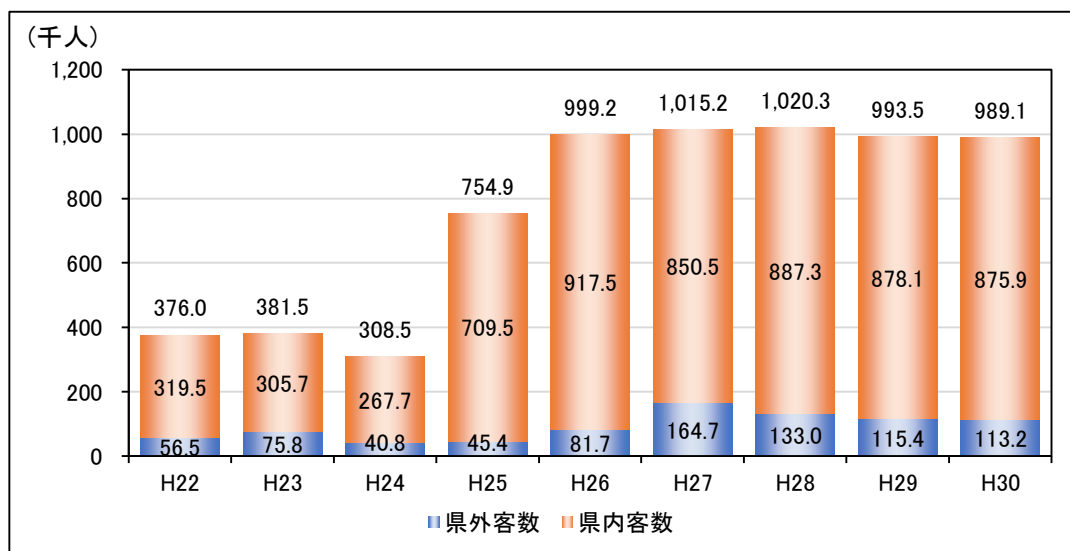
[資料：商業統計調査、経済センサス活動調査 (H24, H28)]

5. 観光（観光客の推移）

○県外客、県内客共に増加傾向。

観光客は、平成 30 年現在、県外客が 113,223 人、県内客が 875,866 人で、合計が 989,089 人となっており、平成 22 年と比較すると約 2.6 倍の増加となっています。特に平成 24 年から平成 25 年で大幅に増加していますが、平成 25 年 7 月にオープンした「道の駅つの」により、飛躍的に増加したと考えられます。

■観光客の推移



[資料：宮崎県観光入込客統計調査結果]

2-5 土地利用

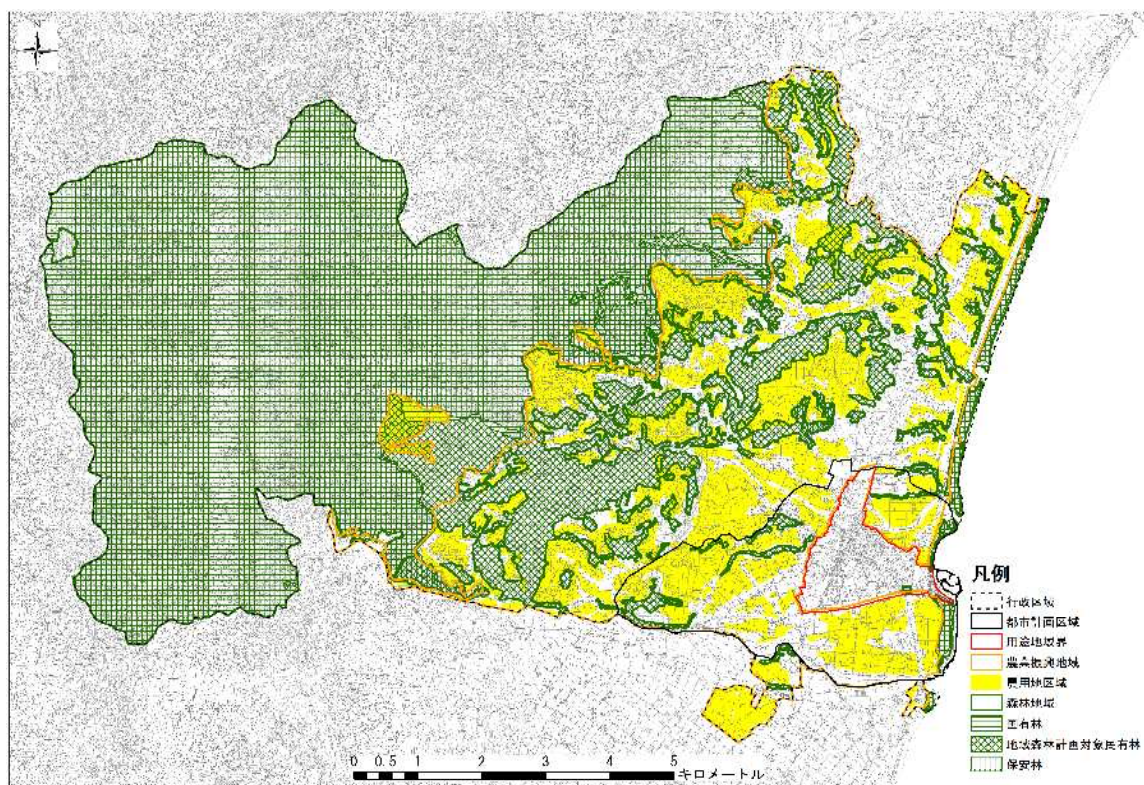
1. 法規制状況

- 都市計画区域の面積は1,148ha、用途地域の面積は254ha。
- 用途地域は駅前通り沿い及び旧国道10号沿道の近隣商業を中心に指定。
- 用途地域面積は商業系及び工業系が各1割、住宅系が8割。

地域・地区	最終年月日	面積 (ha)
都市計画区域	平成12年3月31日	1,148
用途地域	平成7年12月12日	254
農用地区域	令和元年11月下旬	1,470
国有林	—	4,920
地域森林計画対象民有林	—	1,389
保安林	平成19年3月29日	12

[資料：宮崎県の都市計画（資料編）2019、庁内資料]

■法規制状況図



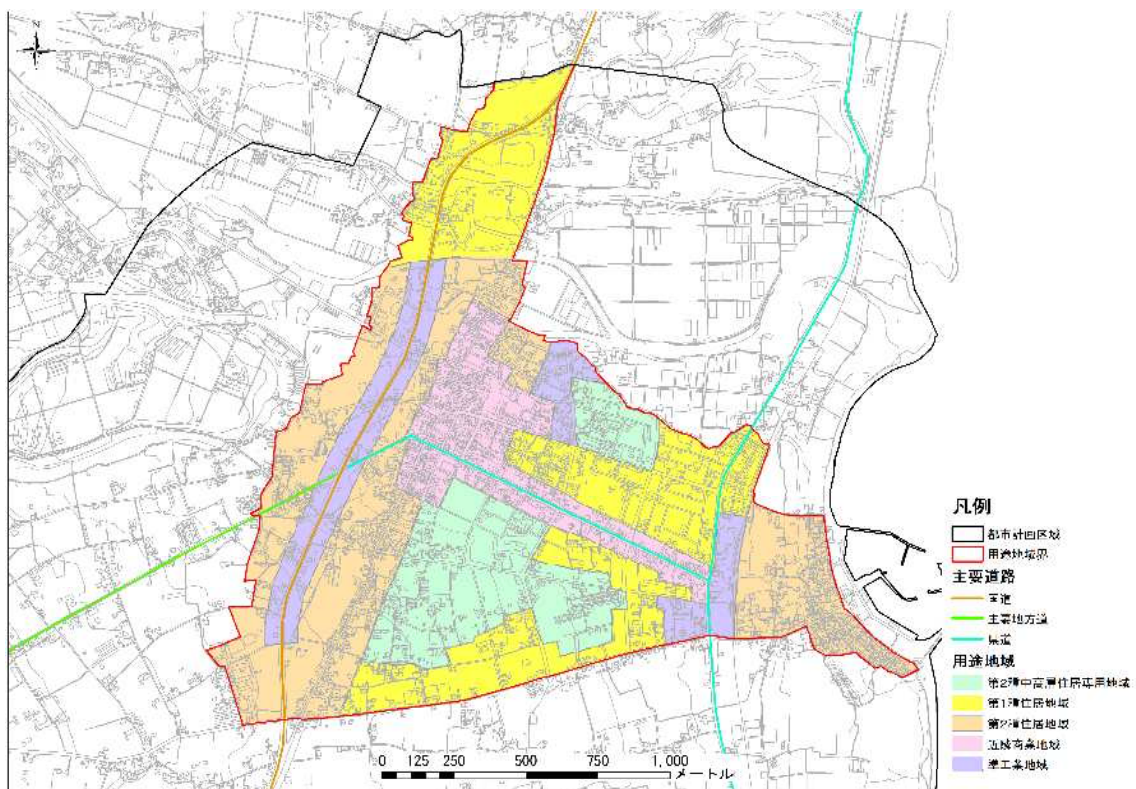
[資料：都市計画基礎調査（平成30年）、国土数値情報]

■用途地域指定状況

用途地域	面積	
	面積	割合
第二種中高層住居専用地域	41.0ha	16.2%
第一種住居地域	75.0ha	29.5%
第二種住居地域	81.0ha	31.9%
近隣商業地域	31.0ha	12.2%
準工業地域	26.0ha	10.2%
計	254.0ha	100.0%

[資料：宮崎県の都市計画（資料編）2019]

■用途地域現況図



[資料：都市計画基礎調査（平成30年）]

2. 土地利用現況

○都市計画区域内の土地利用は自然的土地利用が67.0%、都市的土地利用が33.0%。
○用途地域指定区域の土地利用について、都市的土地利用が68.8%である一方、自然的土地利用が31.2%を占めている。

本町の都市計画区域内の土地利用比率は、自然的土地利用が67.0%、都市的土地利用が33.0%と、自然的土地利用が約7割を占めています。また、個別でみると、畑が37.4%と最も多く、次いで田の14.4%、住宅用地の13.2%、道路用地の8.3%、山林の7.5%となります。

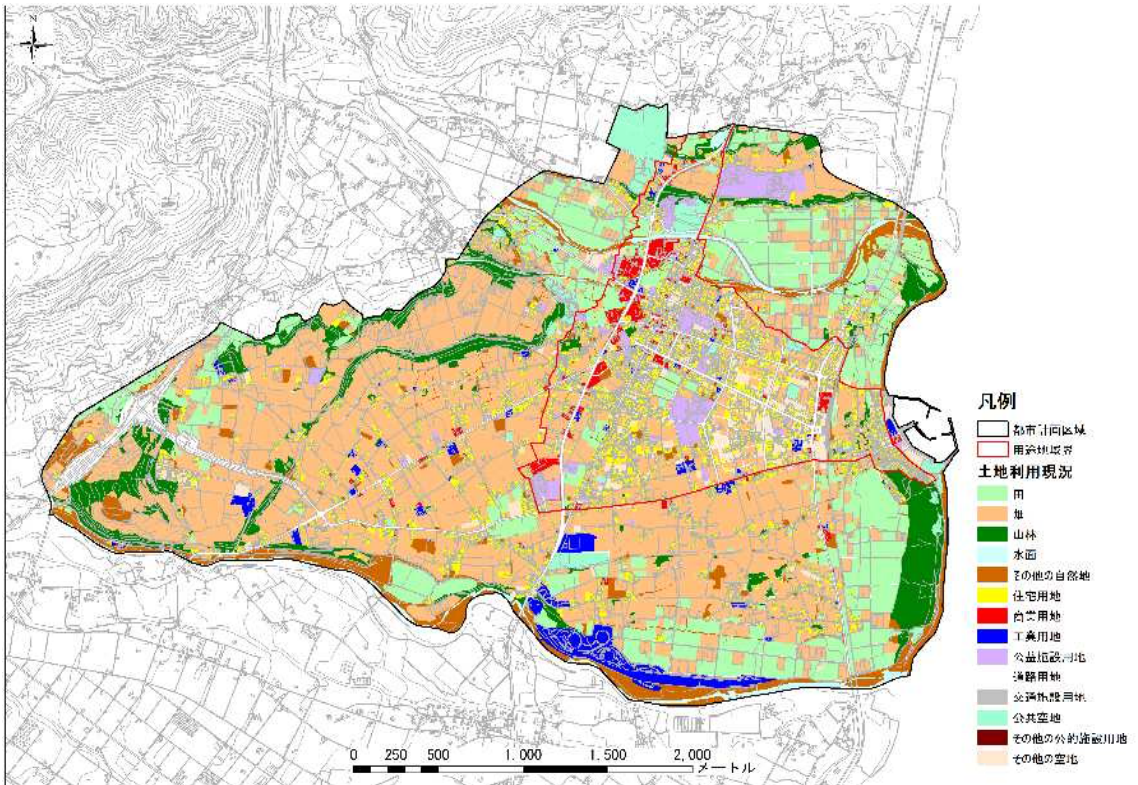
区域別にみると、用途地域指定区域では、住宅用地が31.2%と最も高いですが、畑の21.0%をはじめ計31.2%の自然的土地利用が含まれています。一方、用途地域指定外区域は、畑が42.0%、田が17.1%、山林が9.0%を占めており、都市的土地利用は道路用地等も含め22.9%にとどまっています。

■土地利用別面積集計表

土地利用区分			都市計画区域		うち用途地域指定区域		うち用途地域指定外区域	
			面積(ha)	比率(%)	面積(ha)	比率(%)	面積(ha)	比率(%)
自然的 土地 利用	農地	田	165.8	14.4	12.6	5.0	153.2	17.1
		畑	428.5	37.4	53.4	21.0	375.1	42.0
		計	594.3	51.8	66.0	26.0	528.3	59.1
	山林	86.2	7.5	5.3	2.1	80.9	9.0	
	水面	17.4	1.5	2.5	1.0	14.9	1.7	
	その他の自然地	70.7	6.2	5.4	2.1	65.3	7.3	
	小計	768.6	67.0	79.2	31.2	689.4	77.1	
都市的 土地 利用	宅地	住宅用地	151.6	13.2	79.5	31.2	72.1	8.0
		商業用地	17.6	1.5	15.2	6.0	2.4	0.3
		工業用地	27.2	2.4	3.2	1.3	24.0	2.7
		計	196.4	17.1	97.9	38.5	98.5	11.0
	公共・公益用地	54.2	4.7	23.6	9.3	30.6	3.4	
	道路用地	95.5	8.3	34.0	13.4	61.5	6.9	
	交通施設用地	6.2	0.5	1.6	0.6	4.6	0.5	
	その他の公共施設用地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他の空地	27.1	2.4	17.7	7.0	9.4	1.1		
小計	379.4	33.0	174.8	68.8	204.6	22.9		
合計	1148.0	100.0	254.0	100.0	894.0	100.0		

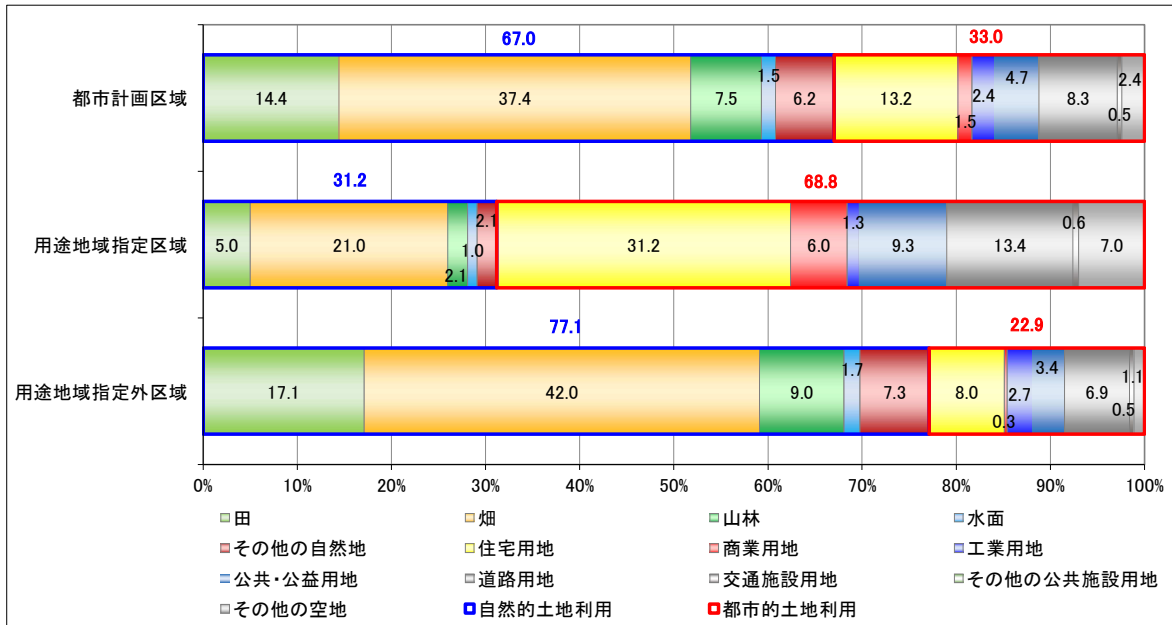
[資料：都市計画基礎調査（平成30年）]

■土地利用現況図



[資料：都市計画基礎調査（平成 30 年）]

■土地利用別面積の割合



[資料：都市計画基礎調査（平成 30 年）]

3. 市街地整備

○都農第一土地区画整理事業及び中部土地区画整理事業は施行済みである。

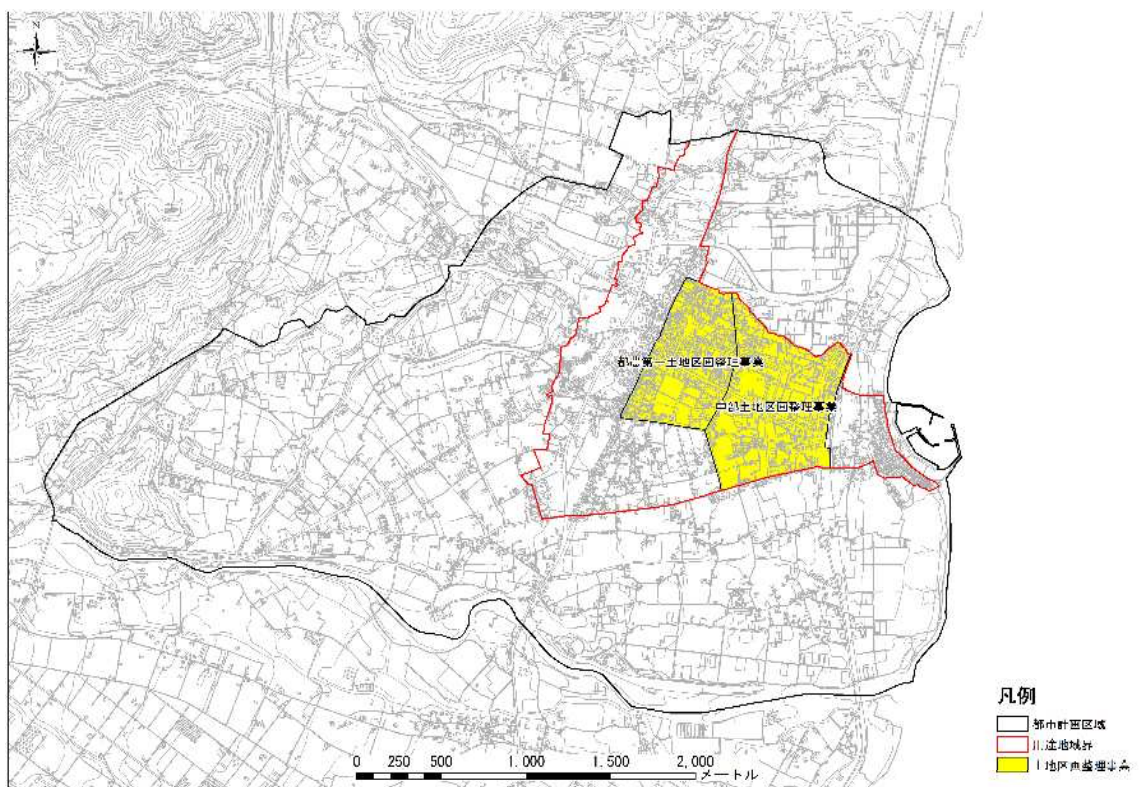
■市街地開発事業

地区名	都市計画決定年月日	施行面積 (ha)
都農第一土地区画整理事業	昭和17年11月20日	44.0
中部土地区画整理事業	昭和59年9月25日	56.3

※都農第一土地区画整理事業の都市計画決定年月日欄には事業計画決定等年月日を記入している。

[資料：宮崎県の都市計画（資料編）2019]

■市街地整備状況図



[資料：庁内資料]

4. 新築

○新築着工件数は年間約 30 件で約 7 割が用途地域指定区域で行われている。

都市計画基礎調査によると、新築着工は平成 23 年から平成 27 年までの間で 137 件実施されています。件数の推移をみると、平成 24 年の 31 件がピークとなっています。

区域別では、用途地域指定区域が 99 件、用途地域指定外区域が 38 件となっており、用途地域指定外区域においても一定の新築着工がみられます。用途の内訳をみると、用途地域指定区域では住宅系が 8 割を占めており、用途地域指定外区域でも住宅系が 8 割を超えています。

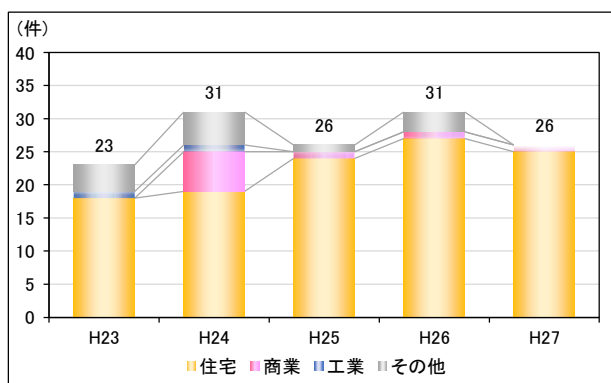
都市計画区域外も含めた新築着工件数の資料によると、平成 27 年～令和元年の 5 年間で 178 件の新築があり、そのうち都市計画区域内の建物が 125 件、都市計画区域外の建物が 53 件と都市計画区域内での建築の割合が多い状況です。

■新築着工状況

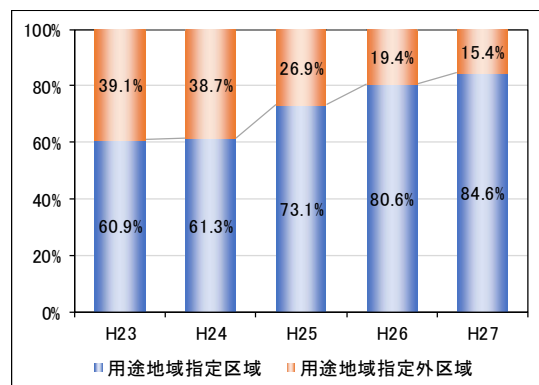
		用途地域指定区域					用途地域指定外区域					合計
		住宅	商業	工業	その他	合計	住宅	商業	工業	その他	合計	
H23	件数	10	0	1	3	14	8	0	0	1	9	23
	割合	71.5	0.0	7.1	21.4	100.0	88.9	0.0	0.0	11.1	100.0	
H24	件数	10	6	0	3	19	9	0	1	2	12	31
	割合	52.6	31.6	0.0	15.8	100.0	75.0	0.0	8.3	16.7	100.0	
H25	件数	17	1	0	1	19	7	0	0	0	7	26
	割合	89.4	5.3	0.0	5.3	100	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
H26	件数	22	1	0	2	25	5	0	0	1	6	31
	割合	88.0	4.0	0.0	8.0	100	83.3	0.0	0.0	16.7	100.0	
H27	件数	21	1	0	0	22	4	0	0	0	4	26
	割合	95.5	4.5	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
合計	件数	80	9	1	9	99	33	0	1	4	38	137
	割合	80.8	9.1	1.0	9.1	100.0	86.9	0.0	2.6	10.5	100.0	

[資料：都市計画基礎調査（平成 30 年）]

■新築着工件数の推移

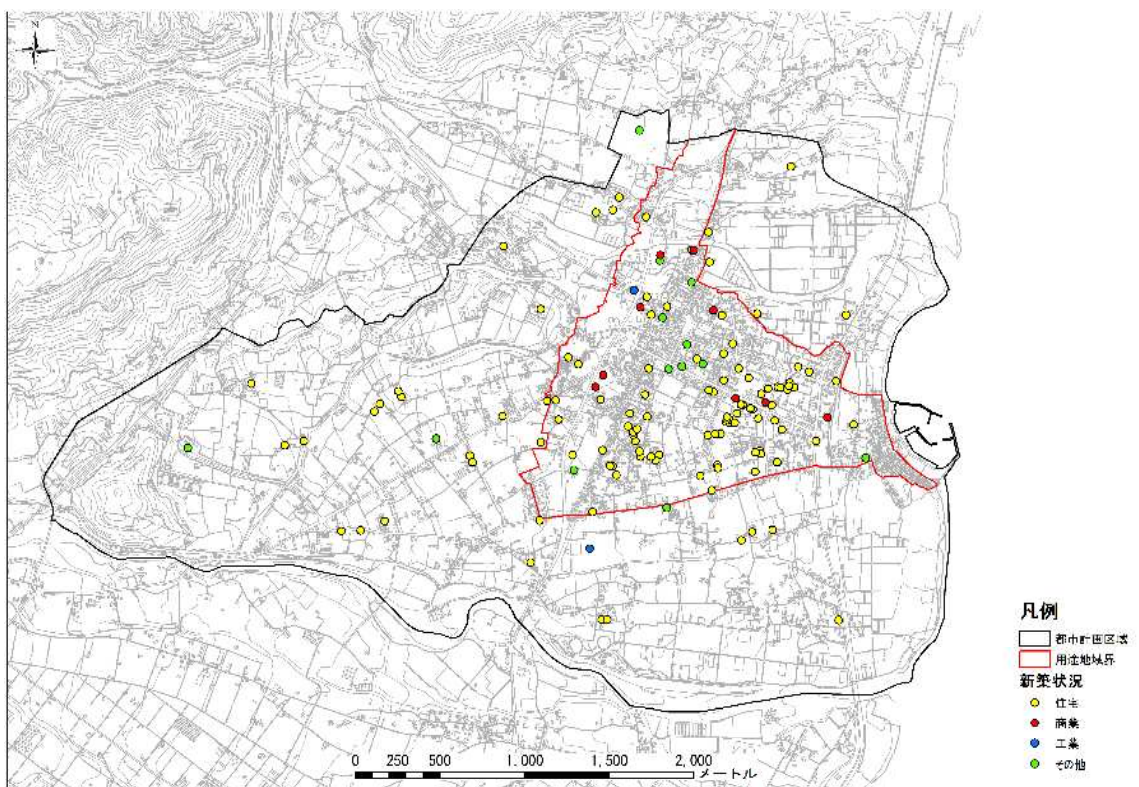


■区域別新築着工件数割合



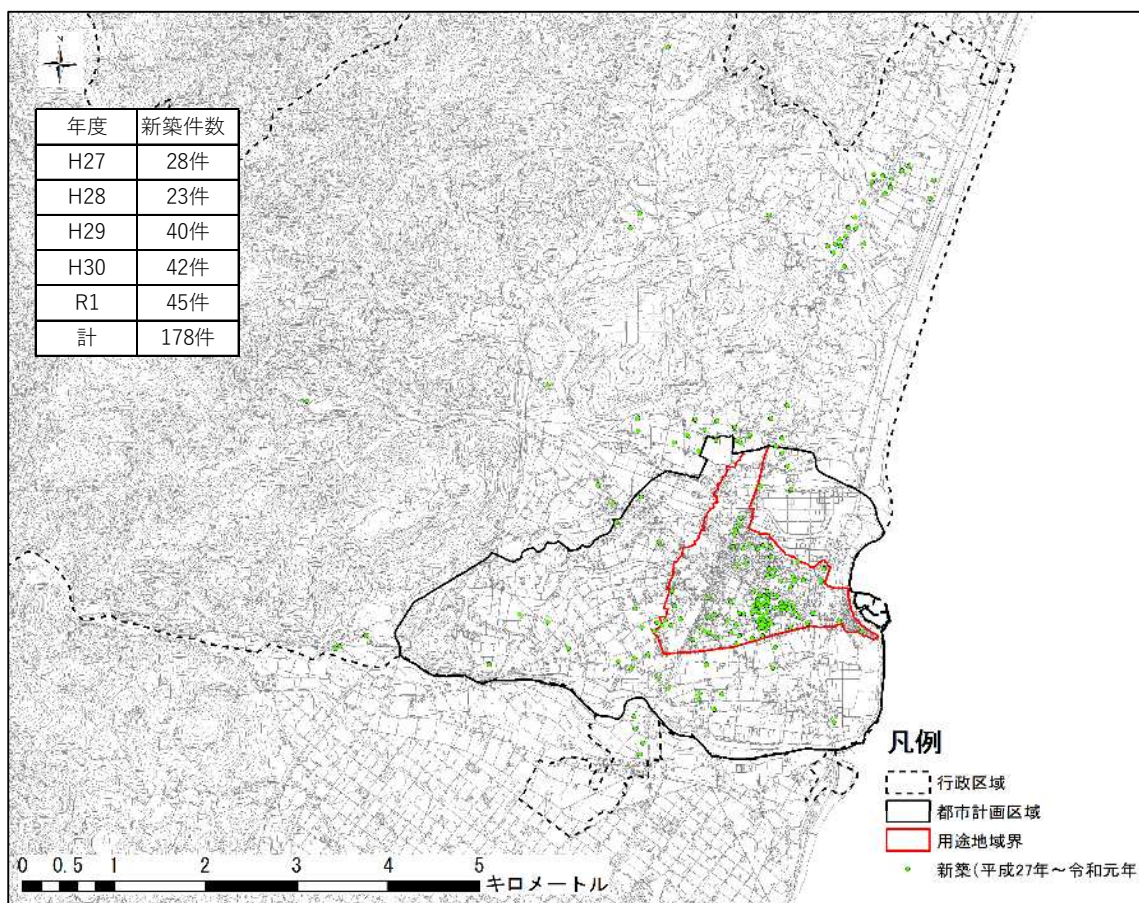
[資料：都市計画基礎調査（平成 30 年）]

■新築状況図（平成23年～平成27年）



[資料：都市計画基礎調査（平成30年）]

■新築状況図（平成27年～令和元年）・都市計画区域外含む



[資料：庁内資料]

5. 農地転用

○平成 18 年から平成 27 年までに、179 件、123,677 m²の農地転用が進行。

農地転用の状況は、平成 18 年から平成 27 年までの間で 179 件 123,677 m²の転用が進んでいます。また、件数、面積共に用途地域指定区域での転用が多くなっています。

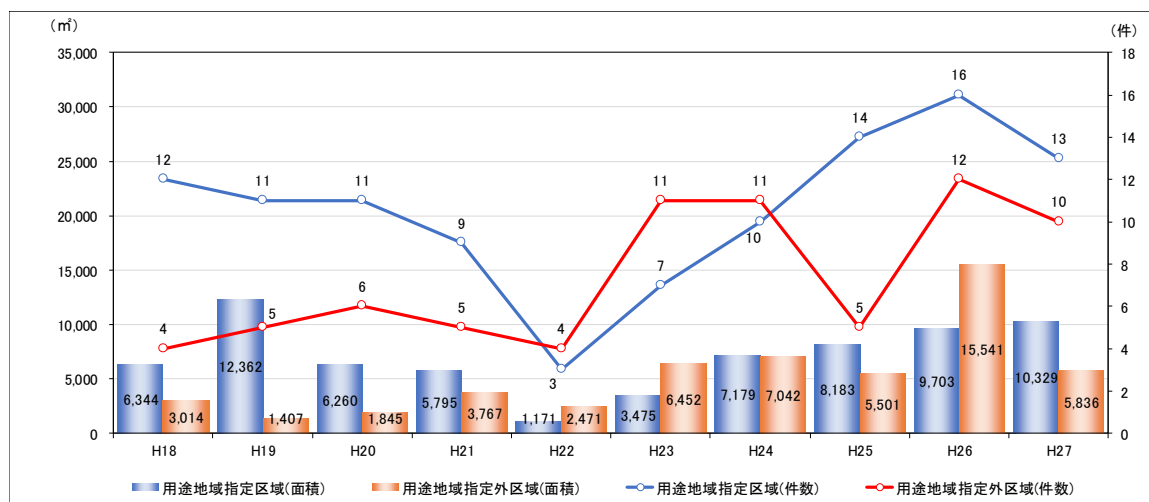
転用件数、転用面積の推移をみると、用途地域指定区域では平成 22 年まで減少傾向にあったものの、平成 23 年は、増加傾向に転じています。また、用途地域指定外区域においても、増加傾向で推移しています。

■農地転用状況（平成 18 年～平成 27 年）

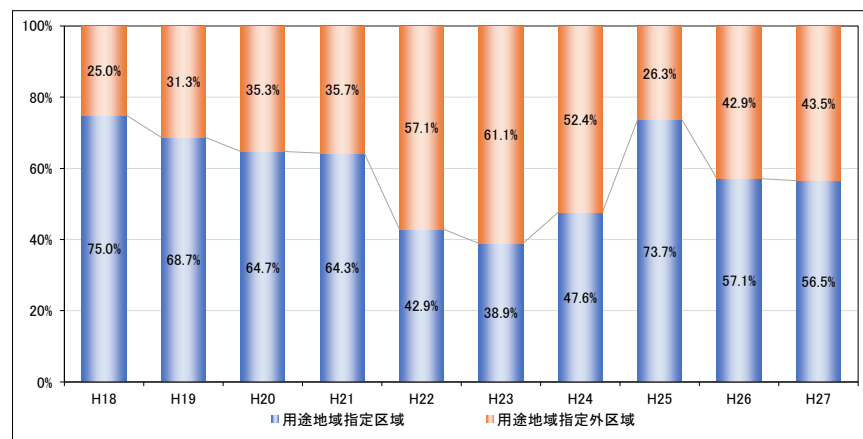
区域	住宅用地		工業用地		公共用地		その他		合計	
	件数	面積 (m ²)	件数	面積 (m ²)	件数	面積 (m ²)	件数	面積 (m ²)	件数	面積 (m ²)
用途地域指定区域	81	41,999	0	0	3	3,472	22	25,331	106	70,801
用途地域指定外区域	32	14,728	1	495	9	11,307	31	26,346	73	52,876
合計	113	56,727	1	495	12	14,779	53	51,677	179	123,677

[資料：都市計画基礎調査（平成 30 年）]

■農地転用の推移

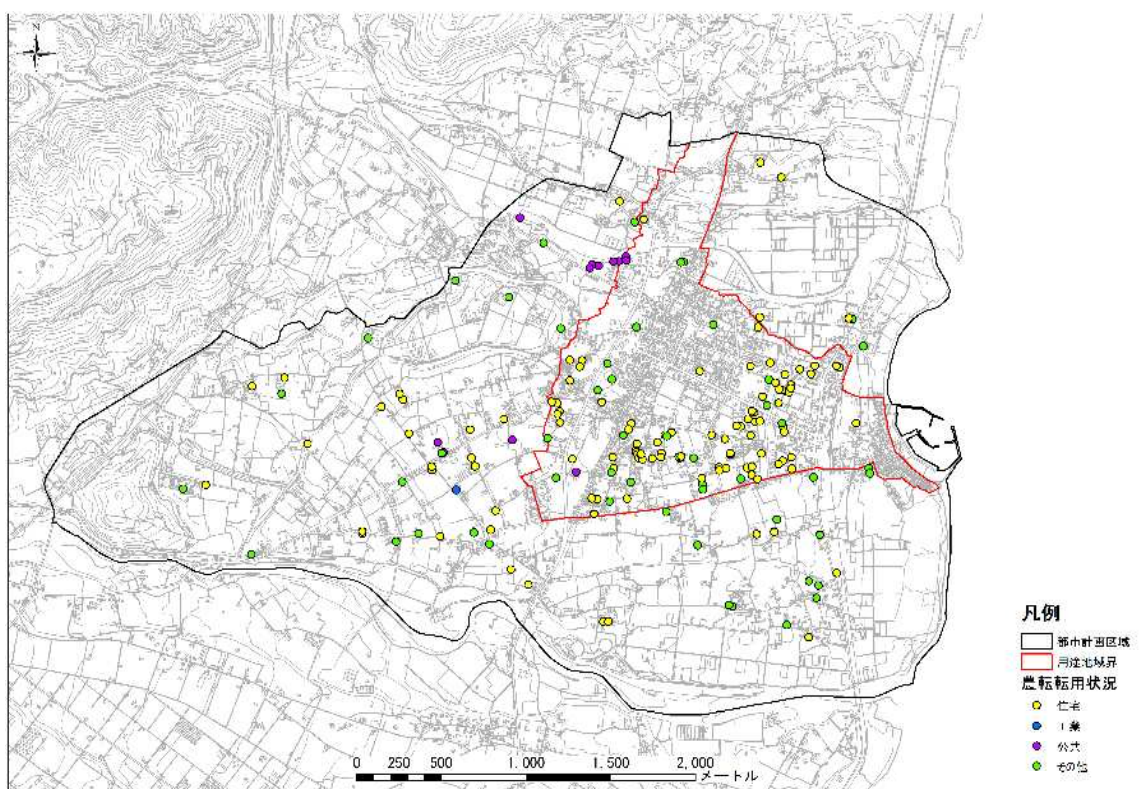


■区域別農地転用件数割合



[資料：都市計画基礎調査（平成 30 年）]

■農地転用状況図（平成18年～平成27年）



[資料：都市計画基礎調査（平成30年）]

2-6 都市施設

1. 都市計画道路

○12 路線の都市計画道路のうち 4 路線が整備済み。

都市計画道路は、12 路線（総延長 26.55km）が計画決定されており、うち 4 路線が整備済みとなっています。

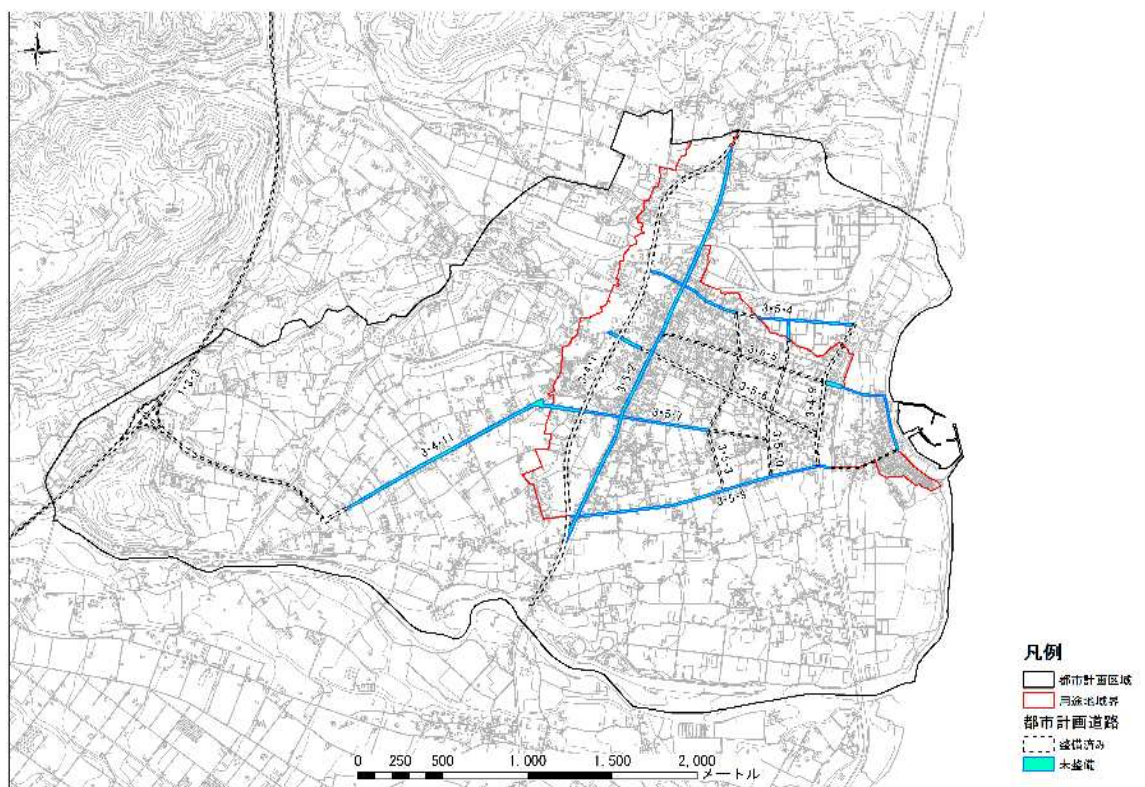
都市計画道路の都市計画決定は昭和 30 年代～40 年代が多く、決定から相当な時間が経過しています。そのため、令和元年度より、現在の本町の状況を勘案した都市計画決定の見直し作業が進められています。

■都市計画道路の整備状況

路線名	幅員	整備状況 (m)		
		計画	整備済	未整備
1・3・3 延岡西都線	24	7,950	7,950	0
3・4・1 坂之上松原線	20	3,250	3,250	0
3・4・9 駅前通線	16	890	890	0
3・4・11 都農インター線	16	2,630	1,100	1,530
3・5・2 坂之上名貴線	15	2,450	0	2,450
3・5・3 山下新別府線	12	1,060	1,060	0
3・5・4 上町通線	12	1,260	155	1,105
3・5・6 福原尾道籠線	15	1,380	1,160	220
3・5・7 新町通線	12	1,100	360	740
3・5・8 松原福原尾線	12	1,980	420	1,560
3・5・10 中央通線	12	910	820	90
3・6・5 湯之本福原尾線	11	1,690	1,000	690
計	—	26,550	18,165	8,385

[資料：庁内資料]

■都市計画道路の整備状況図



[資料：都農町都市計画図及び庁内資料]

2. 都市計画公園

○すべての都市計画公園が供用済み（藤見公園は一部未供用）。

都市計画公園は、5箇所（総面積 19.14ha）が計画決定されており、藤見公園の整備率が71.9%ではありますが、すべての都市計画公園が供用済み（藤見公園は一部未供用）となっています。

■都市計画公園の整備状況

名称	面積 (ha)	供用 (ha)	整備率 (%)	備考
2・2・1 中町児童公園	0.15	0.15	100.0%	街区公園
2・2・2 新町児童公園	0.16	0.16	100.0%	街区公園
2・2・3 中央児童公園	0.23	0.23	100.0%	街区公園
3・3・1 一ノ宮公園	3.30	3.30	100.0%	近隣公園
5・5・1 藤見公園	15.30	11.00	71.9%	総合公園
計	19.14	14.84	77.5%	

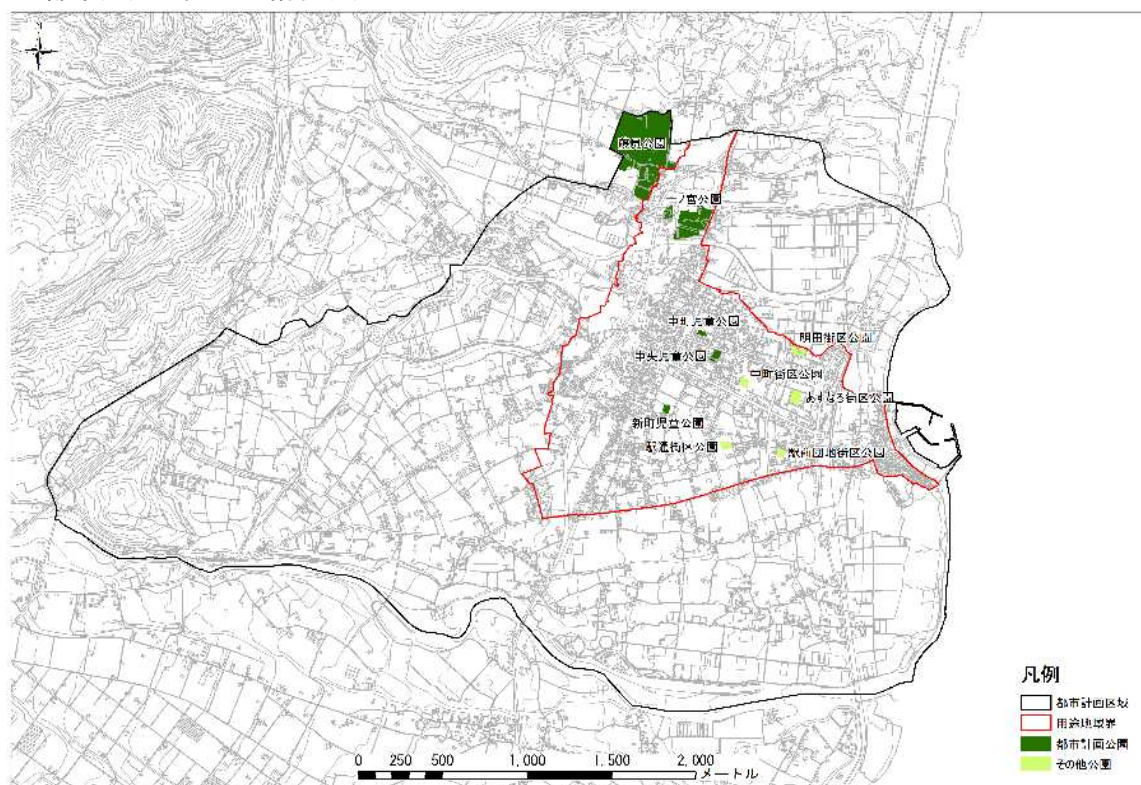
[資料：宮崎県の都市計画（資料編）2019]

■公園（区画整理）の整備状況

名称	面積 (ha)	供用 (ha)	整備率 (%)	備考
明田街区公園	0.50	0.50	100.0%	1号公園
あすなろ街区公園	0.50	0.50	100.0%	2号公園
駅前団地街区公園	0.23	0.23	100.0%	3号公園
駅通街区公園	0.23	0.23	100.0%	4号公園
中町街区公園	0.23	0.23	100.0%	5号公園
計	1.69	1.69	100.0%	

[資料：庁内資料]

■都市計画公園の整備状況図



[資料：都市計画基礎調査（平成30年）及び庁内資料]

3. 下水道

○すべての都市下水路が供用済み。

本町に公共下水道の計画はなく、雨水排除を目的とした都市下水路が 2 箇所（総延長 3.74km）が計画決定されており、すべての都市下水路が整備済みとなっています。

また、平成 30 年現在の合併処理浄化槽の普及率は 50.7%となっています。

■都市下水路の整備状況

名称	延長 (m)	供用 (m)	整備率 (%)
湯ノ本都市下水路	1,340	1,340	100.0%
駅前都市下水路	2,400	2,400	100.0%
計	3,740	3,740	100.0%

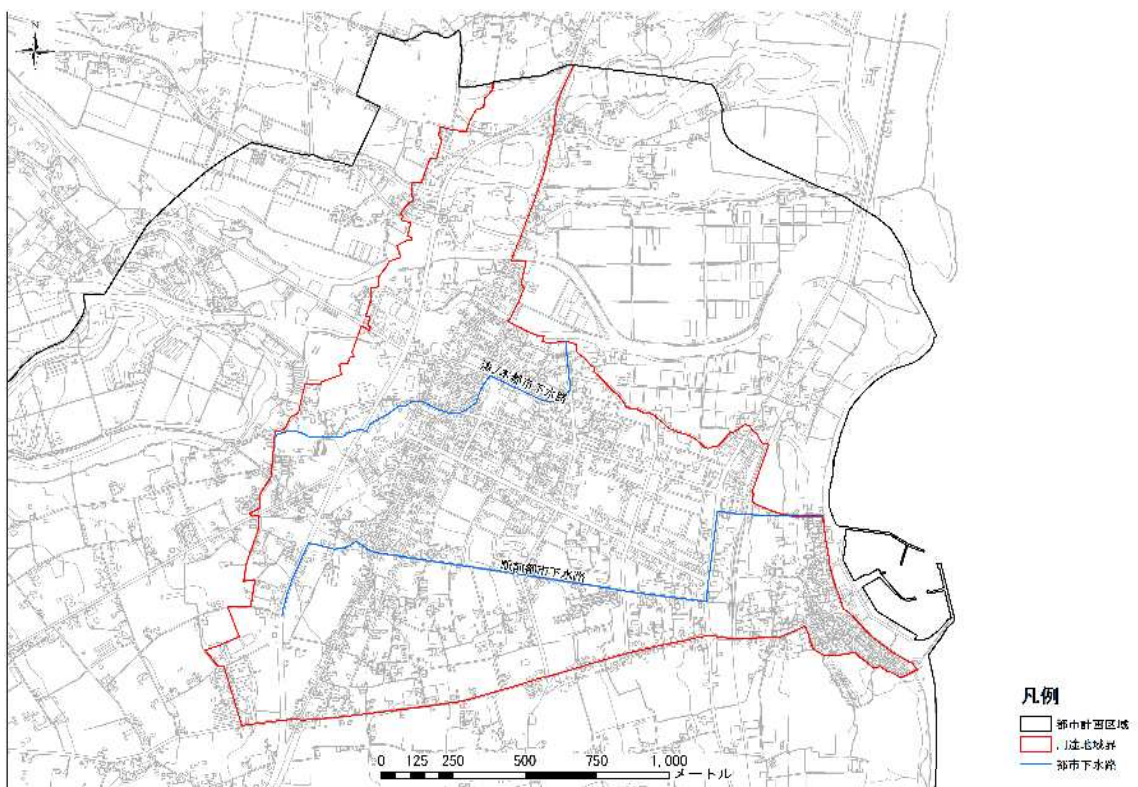
[資料：宮崎県の都市計画（資料編）2019]

■合併処理浄化槽の普及状況（H30）

	人口 (人)	普及率 (%)	設置基数 (基)	備考
合併処理浄化槽	5,362	50.7%	1,383	内訳（補助：1,289基、その他：27基、民間：67基）
単独処理浄化槽	3,014	28.5%	1,354	
汲取り槽	2,202	20.8%	1,407	
計	10,578	100.0%	4,144	

[資料：庁内資料]

■都市下水路の整備状況図



[資料：都農町都市計画図]

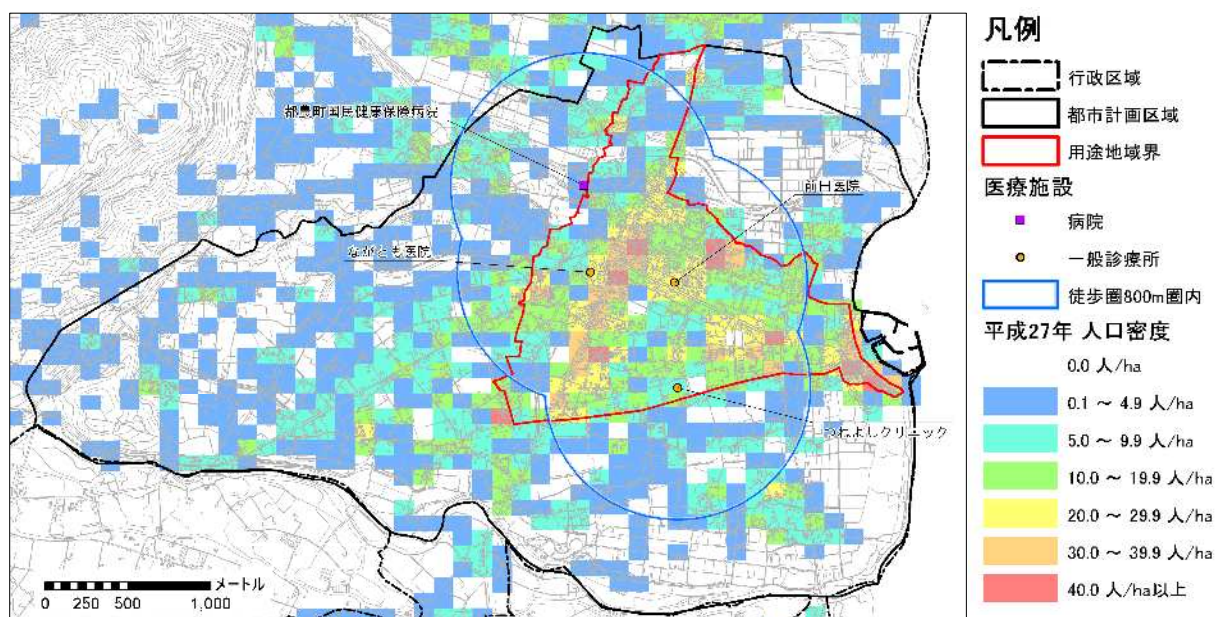
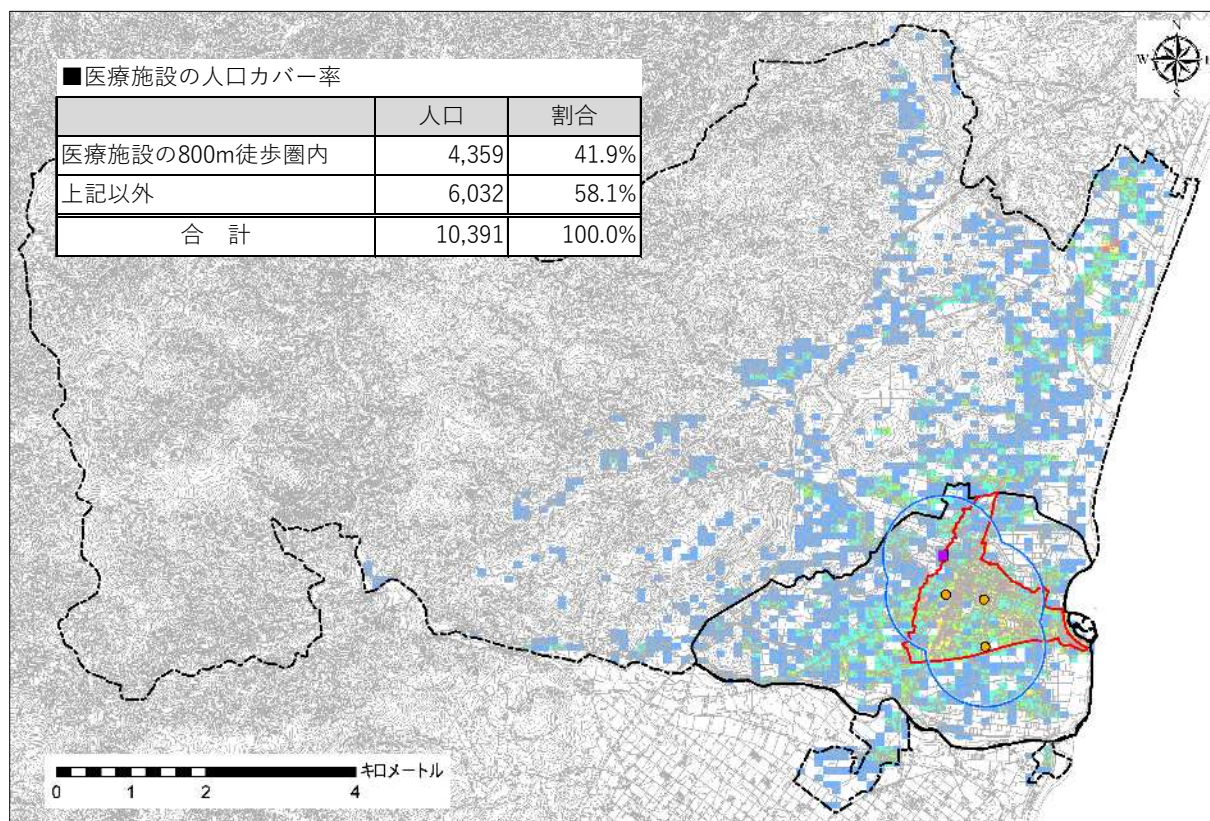
2-7 生活サービス施設

1. 医療施設

○医療施設の人口カバー率は約42%。

医療施設は本町に4軒立地しており、主に用途地域の周辺に分布しています。徒歩圏を800mとしたときの本町の医療施設の人口カバー率は約42%となっています。

■医療施設の徒歩圏カバー人口率



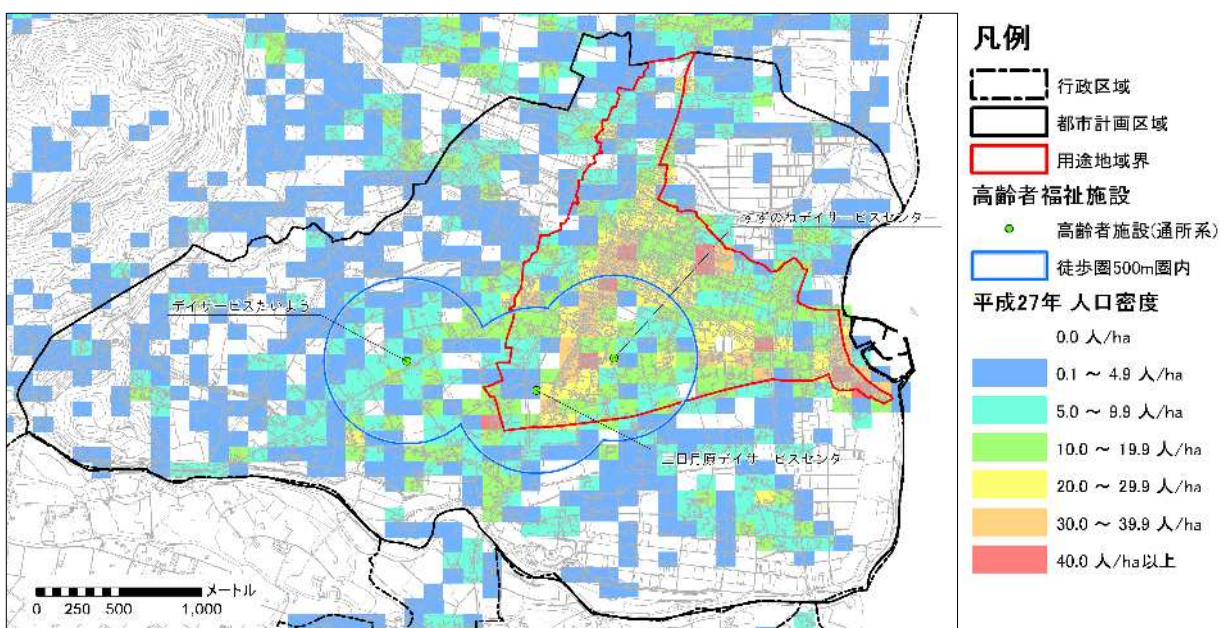
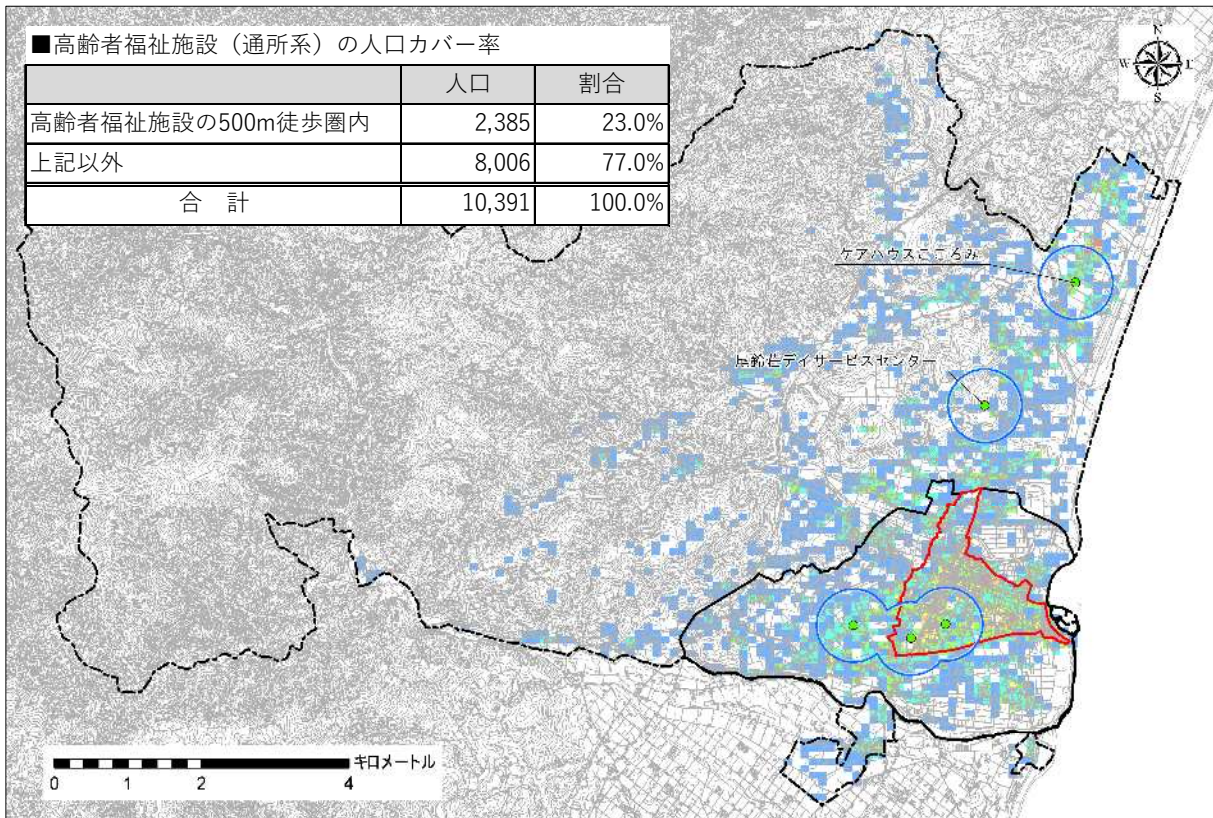
[資料：地域医療情報システム]

2. 高齢者福祉施設

○高齢者福祉施設（通所系）の人口カバー率は約23%。

高齢者福祉施設（通所系）は、本町に5軒立地しています。高齢者の徒歩圏を500mとしたときの本町の医療施設の人口カバー率は約23%となっています。

■高齢者福祉施設の徒歩圏人口カバー率



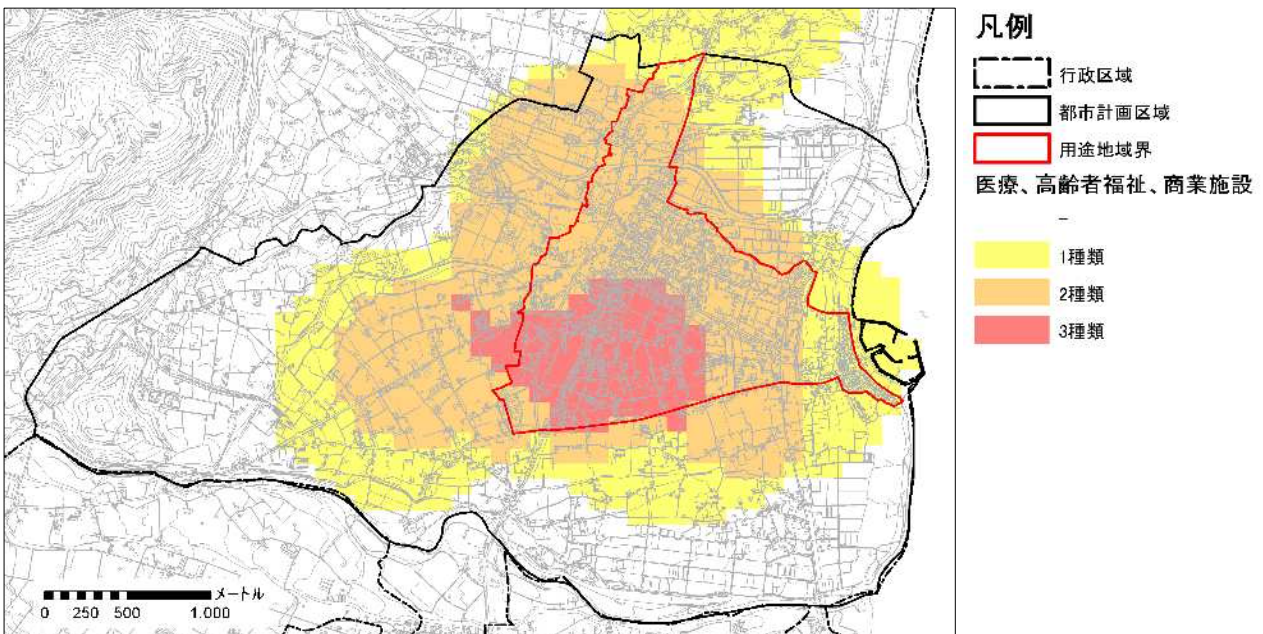
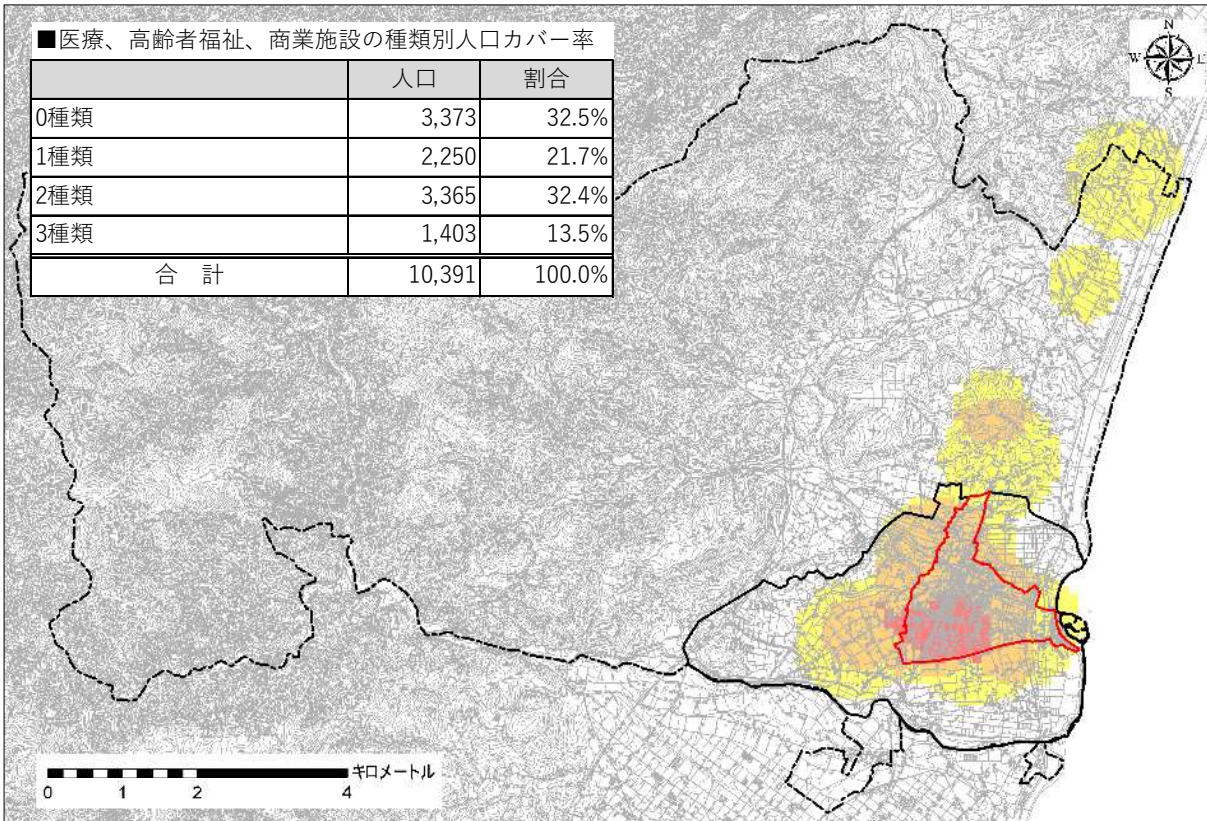
[資料：介護サービス情報公表システム]

4. 生活利便施設の徒歩圏充足率

○医療、高齢者福祉（通所系）、商業施設のすべての施設の徒歩圏カバー率は約13%で用途地域内の徒歩圏充足率が高い。

医療施設、高齢者福祉施設（通所系）、商業施設すべて徒歩圏内にある人口カバー率は約13%です。1種類でも徒歩圏内に施設がある人口の分布図を作成すると、用途地域内は3種類の区域もあり、生活利便施設の徒歩圏充足率が高いことが分かります。

■都市施設の集積状況



[資料：iタウンページなど]

2-8 道路・交通

1. 道路網

- 国道10号を基軸に道路網を形成。
- 国道10号及び広域農道は緊急時の輸送路に指定。
- 高速道路のICが設置されている。

道路網は、国道10号が周辺市町を結ぶ幹線道路としての機能を有しています。

また、国道10号広域農道は緊急時の輸送路に指定されています。

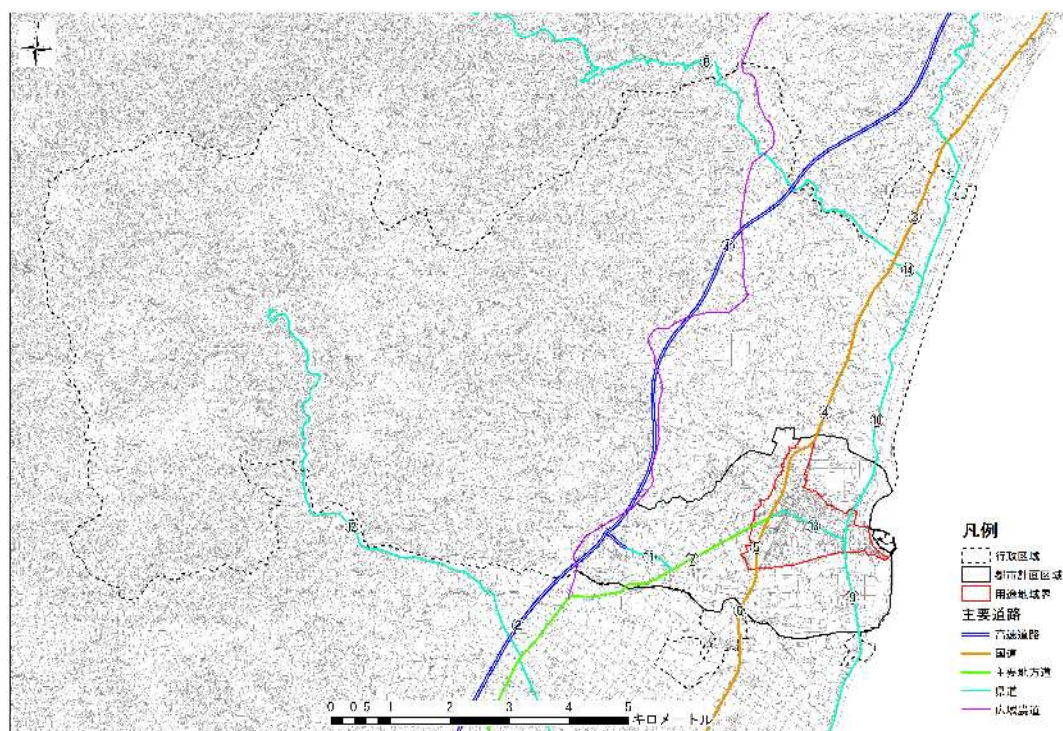
広域幹線道路としては、東九州自動車道が本町を南北に縦断し、都農ICが設置されています。

■主要道路断面交通量

番号	路線名	観測地点地名	12時間 交通量	24時間 交通量	混雑度
①	東九州自動車道	日向IC～都農IC	5,568	6,593	0.61
②	東九州自動車道	都農IC～高鍋IC	5,705	6,771	0.73
③	一般国道10号	—	12,110	15,622	1.05
④	一般国道10号	児湯郡都農町大字川北	12,110	15,574	1.02
⑤	一般国道10号	児湯郡都農町大字川北	12,110	15,574	0.65
⑥	一般国道10号	児湯郡川南町大字川南	12,116	15,594	1.20
⑦	都農綾線	—	6,982	8,728	0.86
⑧	山陰都農線	日向市東郷町大字山陰字松尾	123	144	0.43
⑨	高鍋美々津線	児湯郡川南町大字川南字孫谷	2,285	2,788	0.28
⑩	高鍋美々津線	児湯郡都農町大字川北字大人形	1,941	2,329	0.44
⑪	都農インター線	児湯郡都農町大字川北字榎土手	1,048	1,247	0.13
⑫	尾鈴川南停車場線	児湯郡川南町大字川南字出水原	3,857	4,744	0.54
⑬	都農停車場線	—	750	900	0.10
⑭	東都農停車場線	—	756	907	0.10

[資料：道路交通センサス（平成27年度）]

■主要道路断面交通量図



[資料：道路交通センサス（平成27年度）]

2. 公共交通

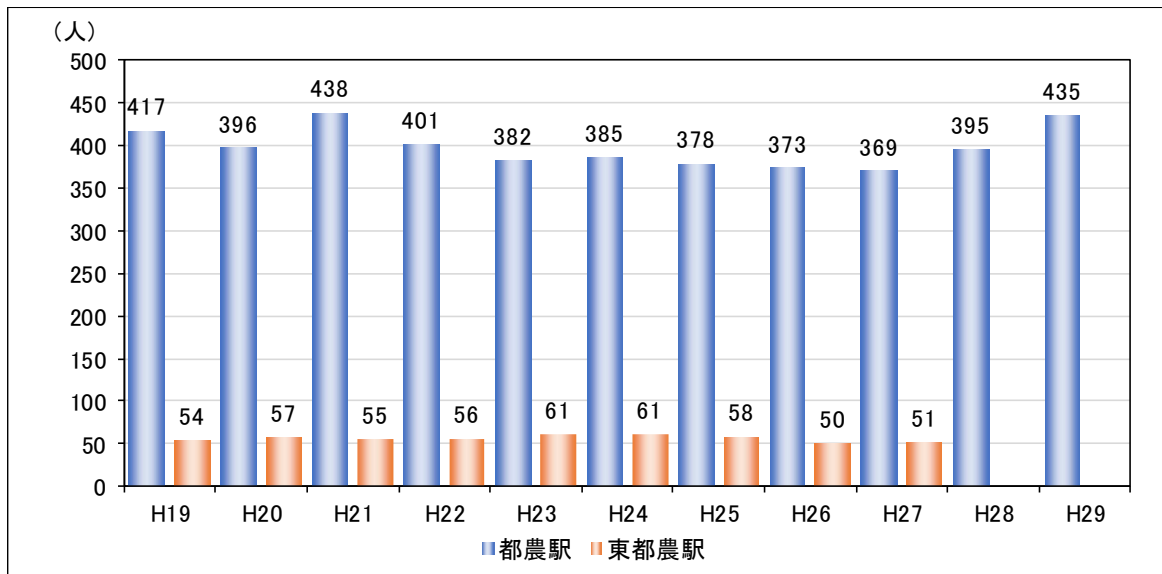
(1) 鉄道

○都農駅は平成27年以降乗客数が上昇傾向。

本町は福岡県北九州市の小倉駅から鹿児島県鹿児島市の鹿児島駅までを結ぶ JR 日豊本線が町東側を南北に縦断し、都農駅と東都農駅が立地しています。

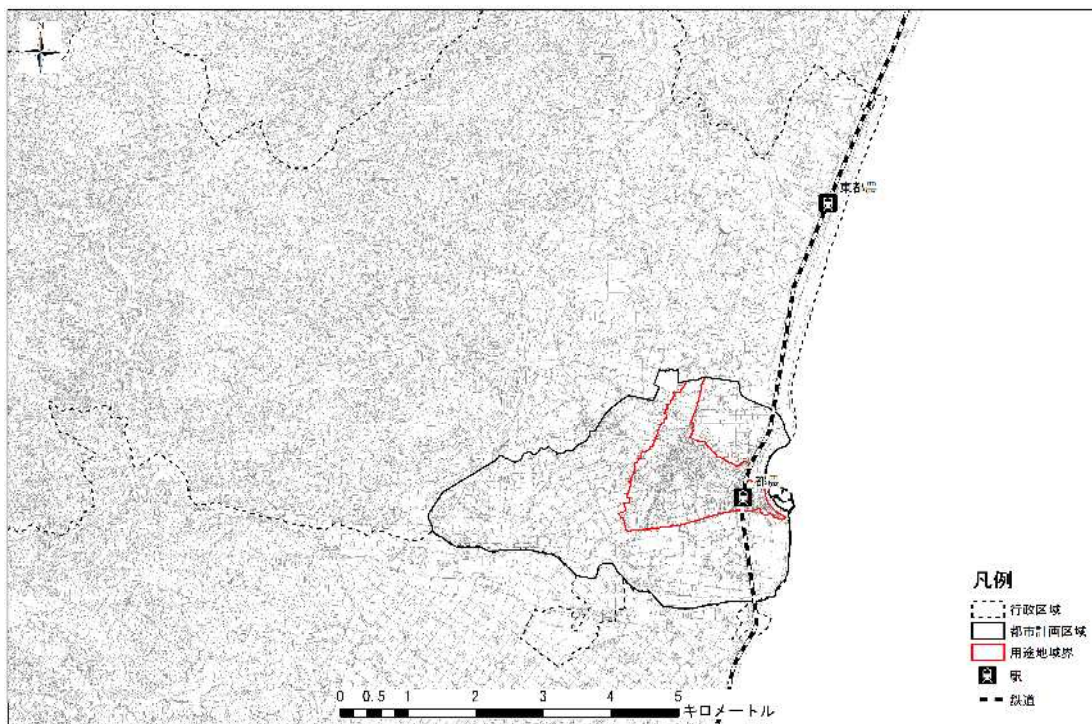
1日当たりの乗車人員をみると、都農駅は平成27年以降上昇傾向で推移しており、平成29年現在は435人、東都農駅は平成28年、平成29年と公表されていませんが、平成27年まで概ね横ばいで推移しています。

■1日当たりの乗車人員



[資料：宮崎県統計年鑑]

■鉄道路線図



[資料：国土数値情報]

(2) バス

○15のバス路線が運行されており、うち14のバス路線は町が運行。

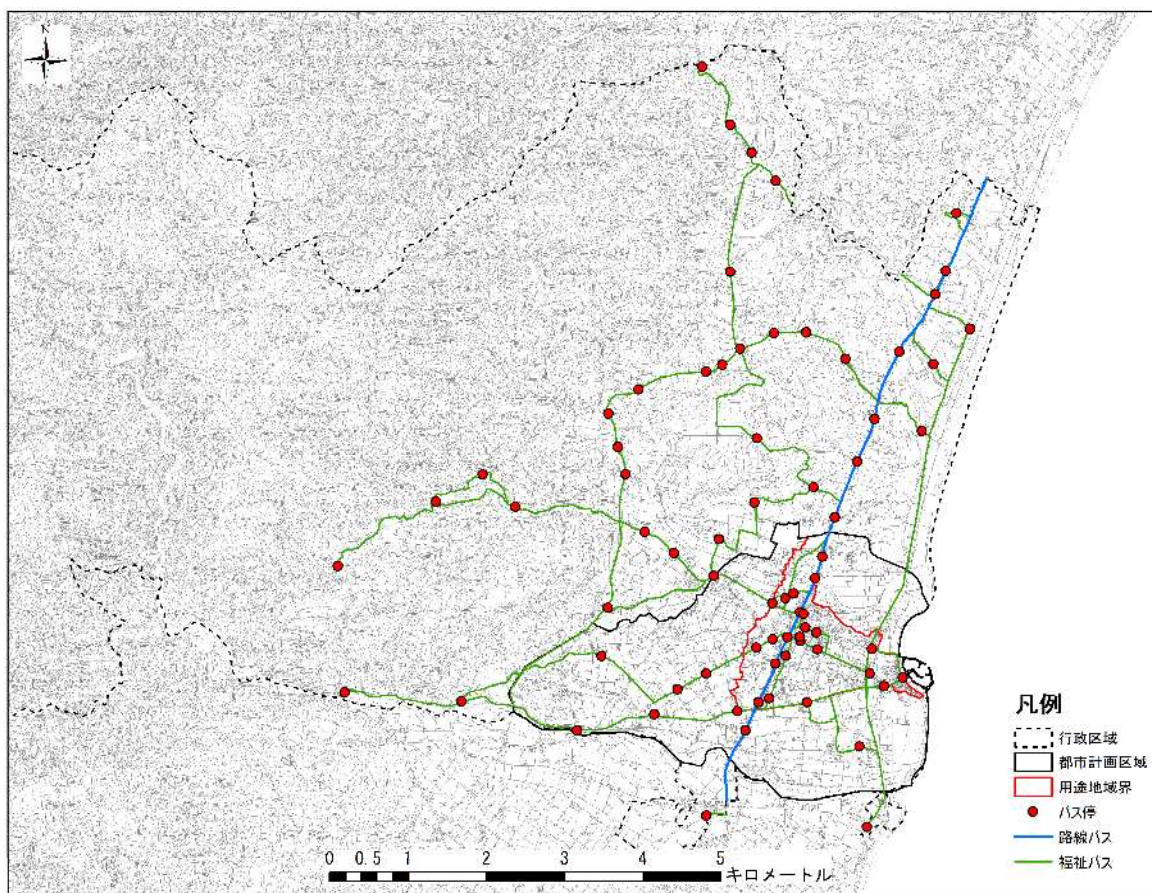
本町には15のバス路線が運行されており、15のうち14のバス路線は、町が運行する福祉バスとなっています。路線バスが都市間を運行し、福祉バスが町内を運行しています。

■運行本数別バス路線

運行バス	路線名	運行会社	停留所		便数(日)			備考
			起点	終点	平日	土曜	休日	
路線バス	高鍋バスセンター-川南-道の駅つの	宮崎交通	高鍋バスセンター	道の駅つの	18	16	12	
福祉バス	征矢原・都農駅線	あい交通	都農バス停	都農駅	1	-	-	月～金の週5日運行
	征矢原線①	あい交通	Aコープ前	都農町立病院	1	-	-	月～金の週5日運行
	征矢原線②	あい交通	道の駅つの	都農バス停	1	-	-	月～金の週5日運行
	平山・木和田線	あい交通	平山	都農バス停	1	-	-	月～金の週5日運行
	木和田・轟線	あい交通	都農小前	轟	2	-	-	月～金の週5日運行
	分子村・轟線	あい交通	分子村公民館	春の山団地	1	-	-	月～金の週5日運行
	轟・朝草線	あい交通	道の駅つの	都農町立病院	2	-	-	月～木の週4日運行
	木和田・舟川・藤見線	あい交通	道の駅つの	ながとも医院	2	-	-	水・金の週2日運行
	芋川・鼓線-下浜・篠別府線	あい交通	篠別府公民館	都農町立病院	1	-	-	火・水・金の週3回運行
	寺迫線(朝便)	あい交通	都農駅	ながとも医院	1	-	-	月・火・木・金の週4日運行
	寺迫線(昼便)	あい交通	ながとも医院	道の駅つの	1	-	-	月・火・木・金の週4日運行
	木和田・牧内線	あい交通	道の駅つの	都農バス停	2	-	-	月・木の週2日運行
	都農駅線	あい交通	都農駅	都農バス停	1	-	-	月～金の週5日運行
	町内周回線	あい交通	都農町立病院	都農町立病院	4	-	-	月～金の週5日運行

[資料：宮崎交通、福祉バス]

■運行系統別バス路線



[資料：宮崎交通、福祉バス]

(3) 交通手段

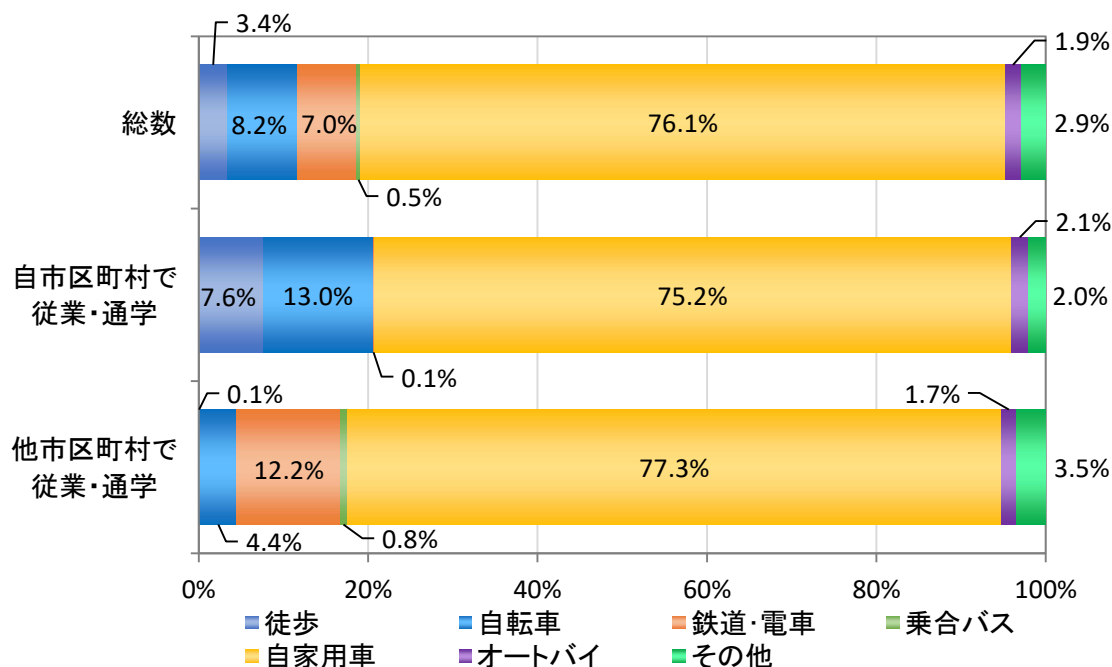
○従業・通学者の交通手段において「自家用車」の利用割合が約76%と高い。

本町に住んでいる方の従業・通学時の交通利用手段をみると、「自家用車」が約76%と最も多く、次いで「自転車」が約8%、「鉄道・電車」が約7%、「徒歩」が約3%となっており、公共交通（「鉄道・電車」、「乗合バス」）を利用している人は、約8%にとどまっています。

本町で従業・通学する人の交通利用手段は、約75%が「自家用車」を利用していますが、「徒歩」や「自転車」を利用する割合も高くなっています。

本町以外で従業・通学する人の交通利用手段は、「自家用車」が約77%を占め高い割合となっているほか、公共交通（「鉄道・電車」、「乗合バス」）の利用率も約13%と高くなっています。

■交通手段（本町内に常住する15歳以上）



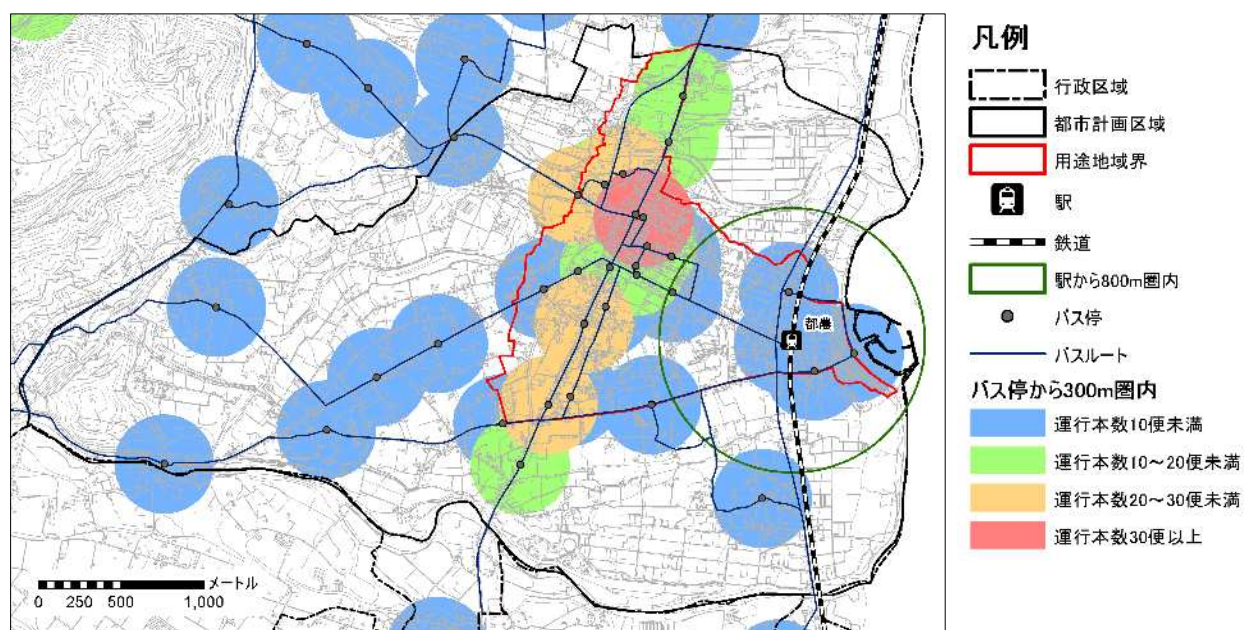
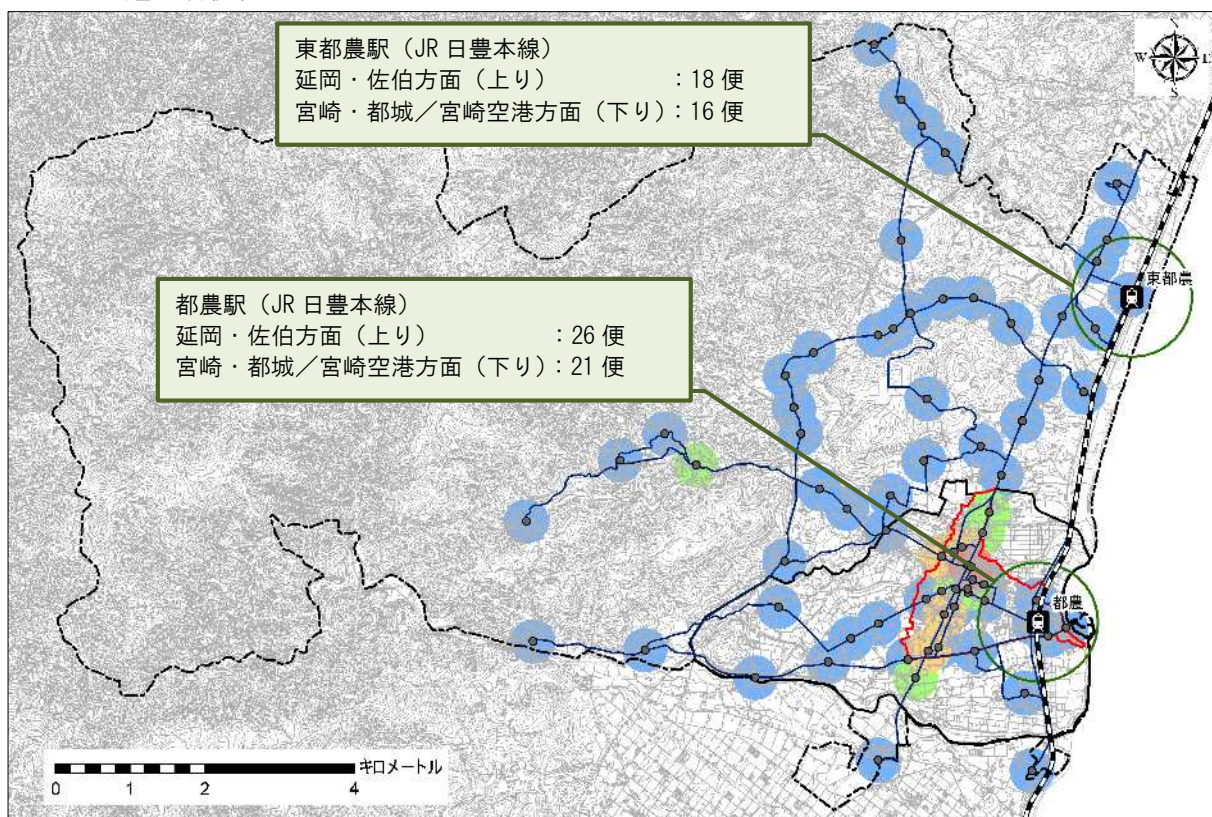
[資料：国勢調査（2010年）]

(4) 公共交通の利便性

○用途地域内はバスの本数が多く公共交通利便性が高い。

鉄道は、都農駅、東都農駅ともに1時間に上り・下りそれぞれ各1~2便程度となっています。バスは用途地域内で1日20便以上の区域が多い一方、用途地域外では10便未満が多く、用途地域内の公共交通利便性が高いといえます。

■公共交通の利便性



※バスの便数は、バス停に止まる回数

[資料：各路線図、時刻表等]

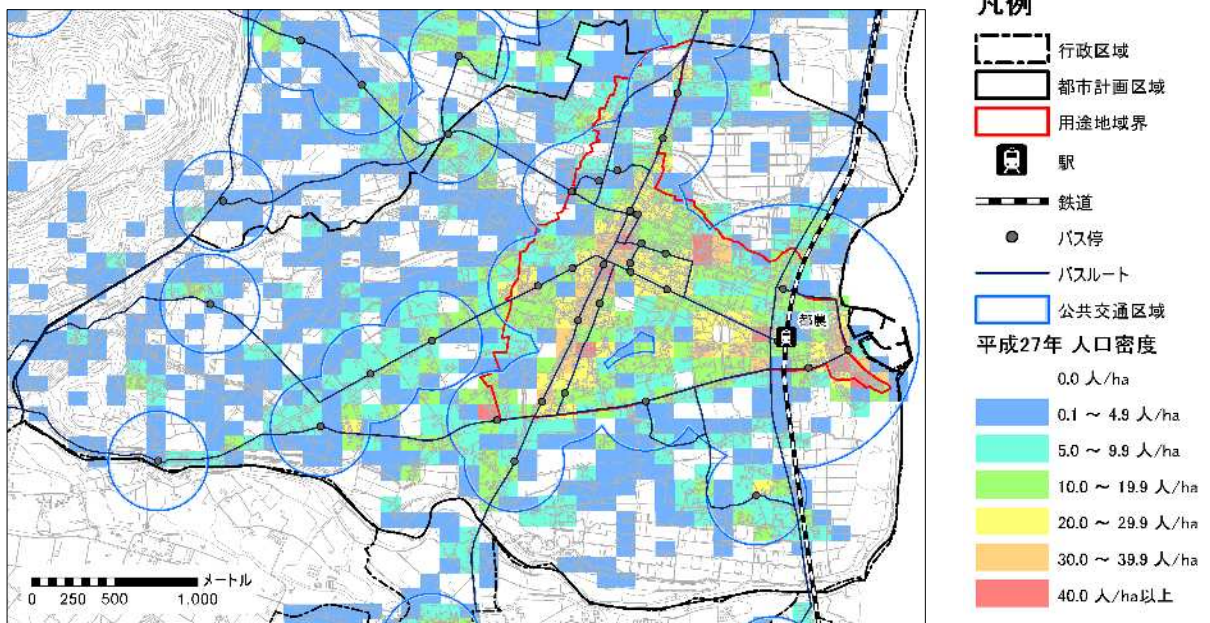
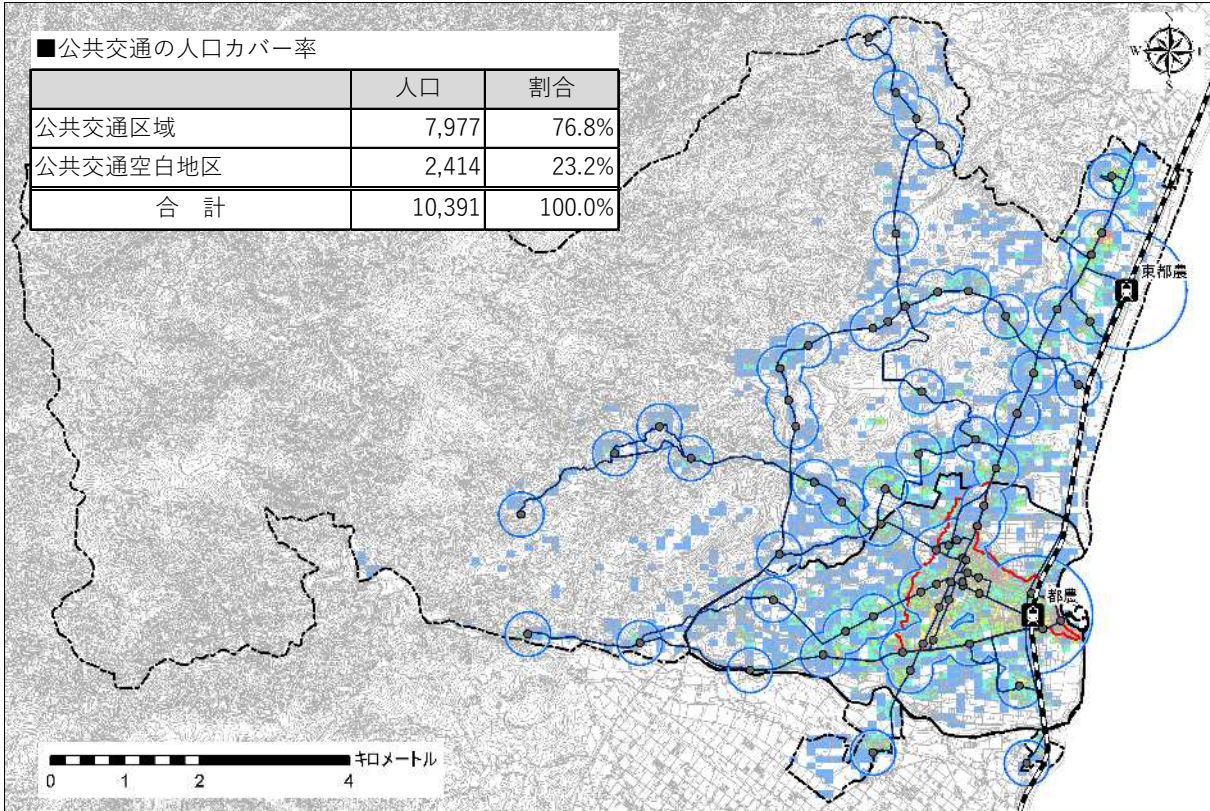
(5) 公共交通カバー区域

○「公共交通カバー区域」は本町人口の約 77%をカバー。

本町のバス網は居住者のいる路線に幅広く整備されており、鉄道駅から 800m、バス停から 300mの区域の「公共交通カバー区域」は本町人口の約 77%をカバーしています。

公共交通区域外の「公共交通空白地区」が約 23%ありますが、町内全域で利用可能なデマンド型乗合タクシーも運行されており、交通弱者へのサービスが提供されています。

■公共交通空白地区



[資料：各路線図、時刻表等]

※本計画における公共交通カバー区域とは鉄道駅から 800m、バス停から 300m 圏内の区域を指す。

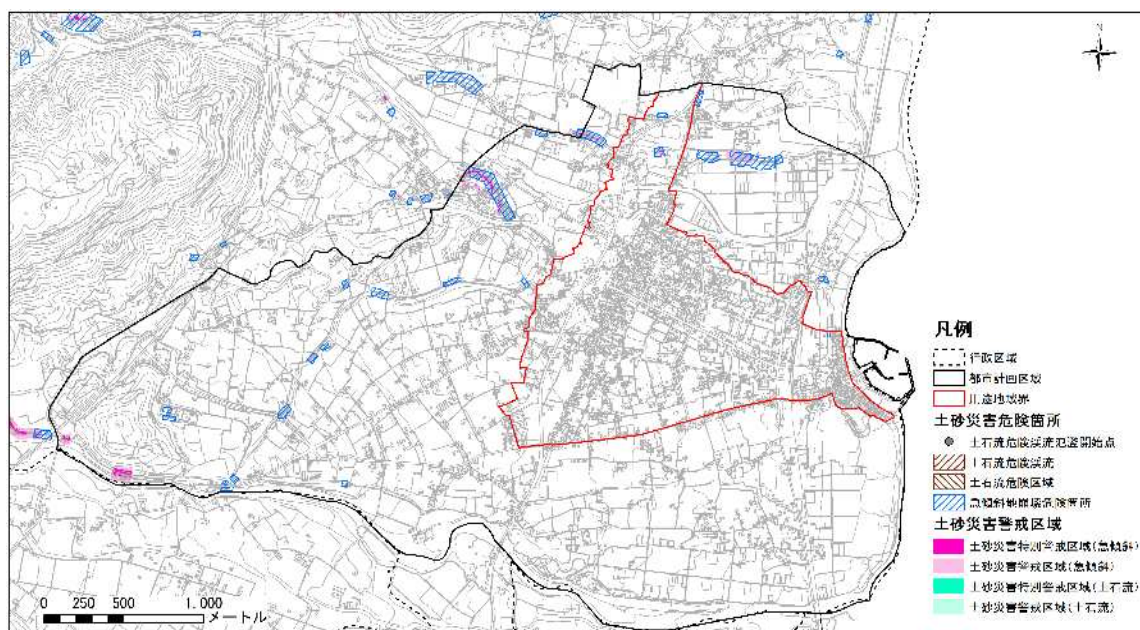
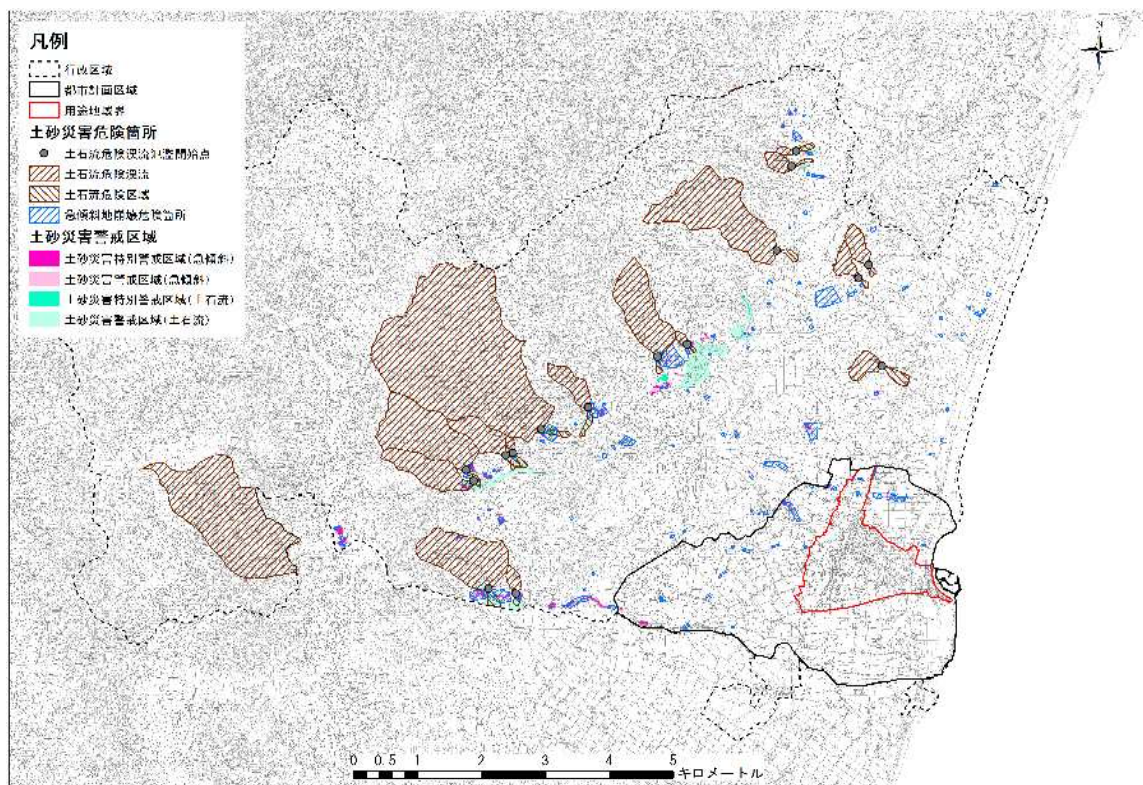
2-9 災害

1. 土砂災害

○町全体に土砂災害の危険個所が分布。

本町は大部分を山林などの自然的土地利用が占めており、そのため土石流や急傾斜などの災害区域が町全体に分布しています。

■土砂災害区域図



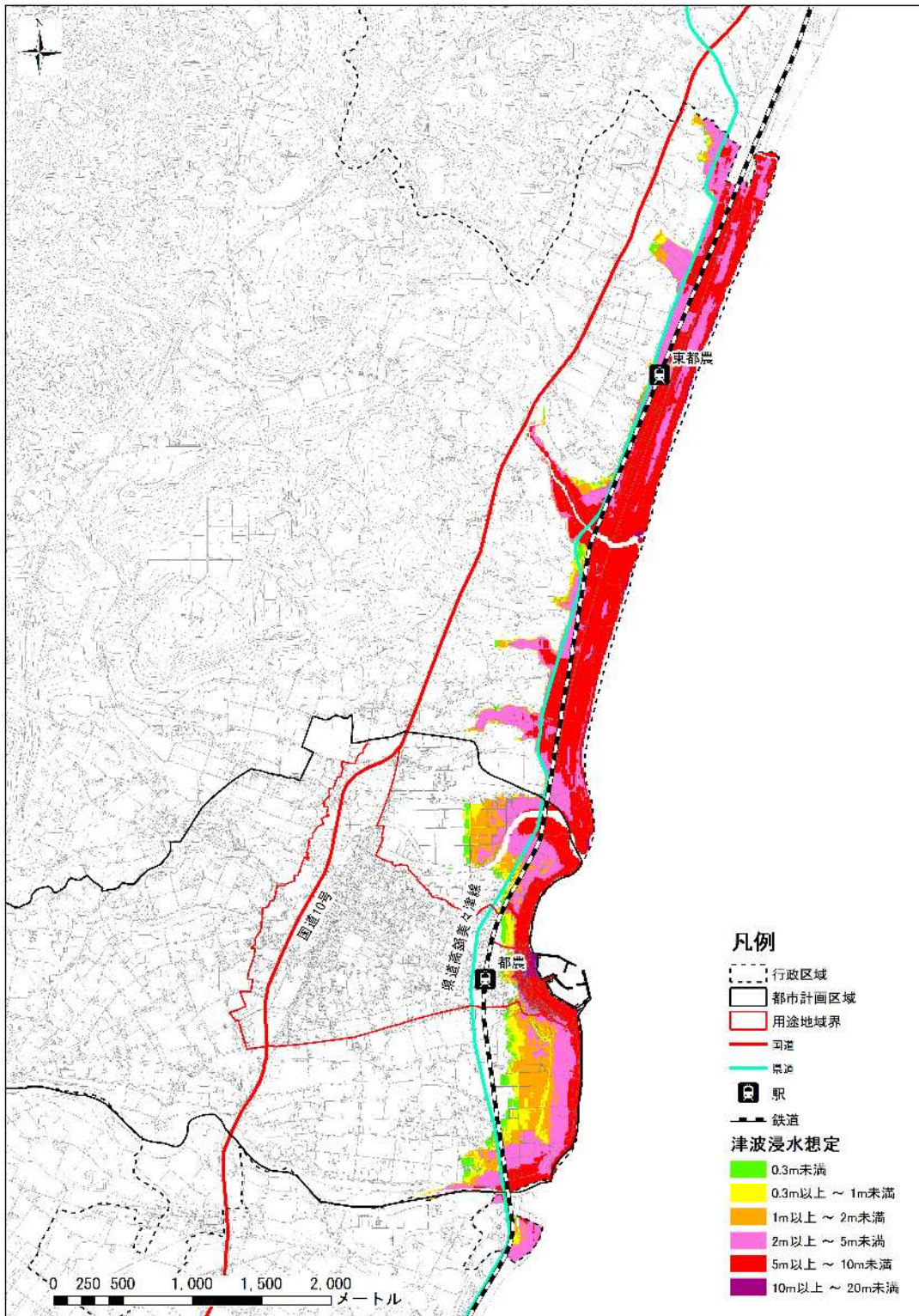
[資料：国土数値情報]

2. 浸水想定区域（津波）

○津波浸水想定区域が存在し、特に鉄道より東側は浸水深が深い。

本町は日向灘に面しているため、津波浸水想定区域が存在しています。特に鉄道より東側は浸水深が深くなっています。

■津波浸水想定区域図

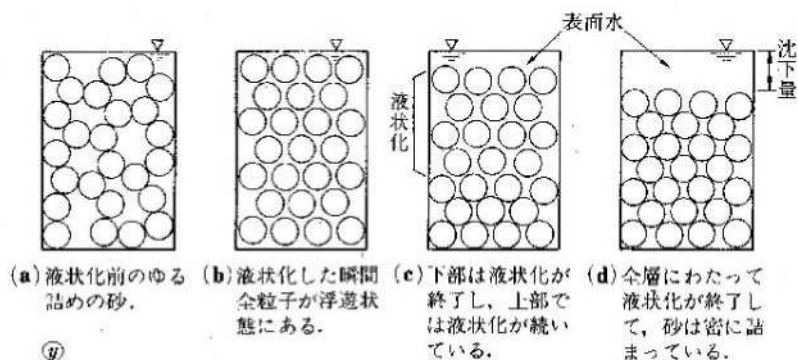


[資料：国土数値情報]

コラム：土地の液状化について

1. 液状化発生のメカニズム

- (下図a) 地盤内の密実でない砂質土は、砂粒子間の押し合う力によって安定を保っている。
- (下図b) 地震による連続した振動は砂粒子を密実化させる方向に働くが、砂粒子の間隙に存在する水(間隙水)の流出(地下水位の上昇)は短時間には進まないため、間隙水の圧力(間隙水圧)は一時的に上昇する。そして遂に噛み合わせが完全に外れて水に浮いたようになり、(液状化した瞬間)、強度を失って建築物等に影響を及ぼす。
- (下図c) 砂粒の沈降速度が一定とすれば、沈降距離の短い下部から順次沈降が完了して安定な状態になり、上部ほど沈降距離が長いので、水に浮いたような(液状化した)状態は長く続く。
- (下図d) 時間の経過によって、砂粒子が密実化することで体積が減少して地表面が沈下する。また、間隙水の排出も進むが、その一部が地表面に吹き出すこともある。



砂の液状化の発生から終了までの過程

出典：吉見吉昭『砂地盤の液状化(第二版)』技報堂出版、1991、p.8

2. 液状化による被害の例(東日本大震災)



道路・宅地の被害[1]
(写真：民間コンサルタント会社より提供)



道路・宅地の被害[2]
(写真：東京電機大学安田教授より提供)



埋設配管の浮き上がり[1]
(写真：国土交通省関東地方整備局)



埋設配管の浮き上がり[2]
(写真：国土交通省関東地方整備局)

[資料：国土交通省 HP]

コラム：大規模盛土の滑動崩落について

阪神・淡路大震災や東日本大震災等において、谷や沢を埋めた造成宅地又は傾斜地盤上に腹付けした大規模な造成宅地において、盛土と地山との境界面や盛土内部を滑り面とする盛土の地滑りの変動（滑動崩落）が生じ、造成宅地における崖崩れ又は土砂の流出による被害が発生しました。

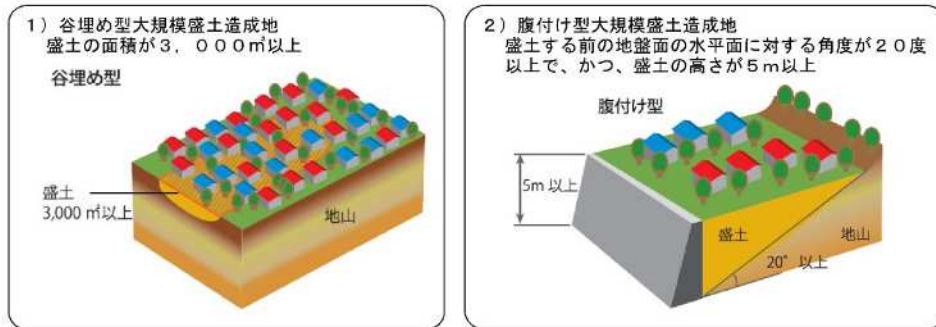
東日本大震災で滑動崩落の被害を受けた宅地の多くは1970年代以前に造成されており、宅地造成等規制法等の改正により技術基準を強化した2006年以降に造成された宅地においては被害が発生していないことを踏まえ、既存の造成宅地について大規模盛土造成地の有無とそれらの安全性の確認（変動予測調査）、危険性が高い箇所の滑動崩落防止工事などの予防対策を早急に進める必要があります。

この予防対策を進めるためには、地方公共団体が変動予測調査を実施し、その結果を公表することで住民の滑動崩落被害に関する理解を深め、地方公共団体等において危険箇所の滑動崩落防止工事を進めていくことが重要とされています。

都農町では、大規模盛土造成地が「存在しない」ことを平成28年度に公表しています。

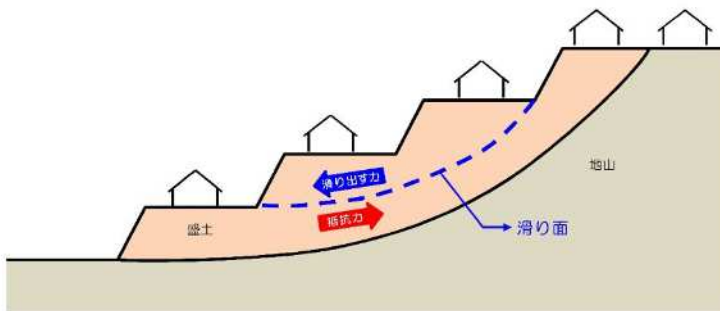
1. 大規模盛土造成地とは

盛土造成地のうち以下の要件に該当するものを「大規模盛土造成地」と呼びます。



2. 滑動崩落とは

地震力及び盛土の自重による盛土の滑り出す力がその滑り面に対する最大摩擦抵抗力その他の抵抗力を上回り、盛土の地滑りの変動が生じることを「滑動崩落」と呼びます。



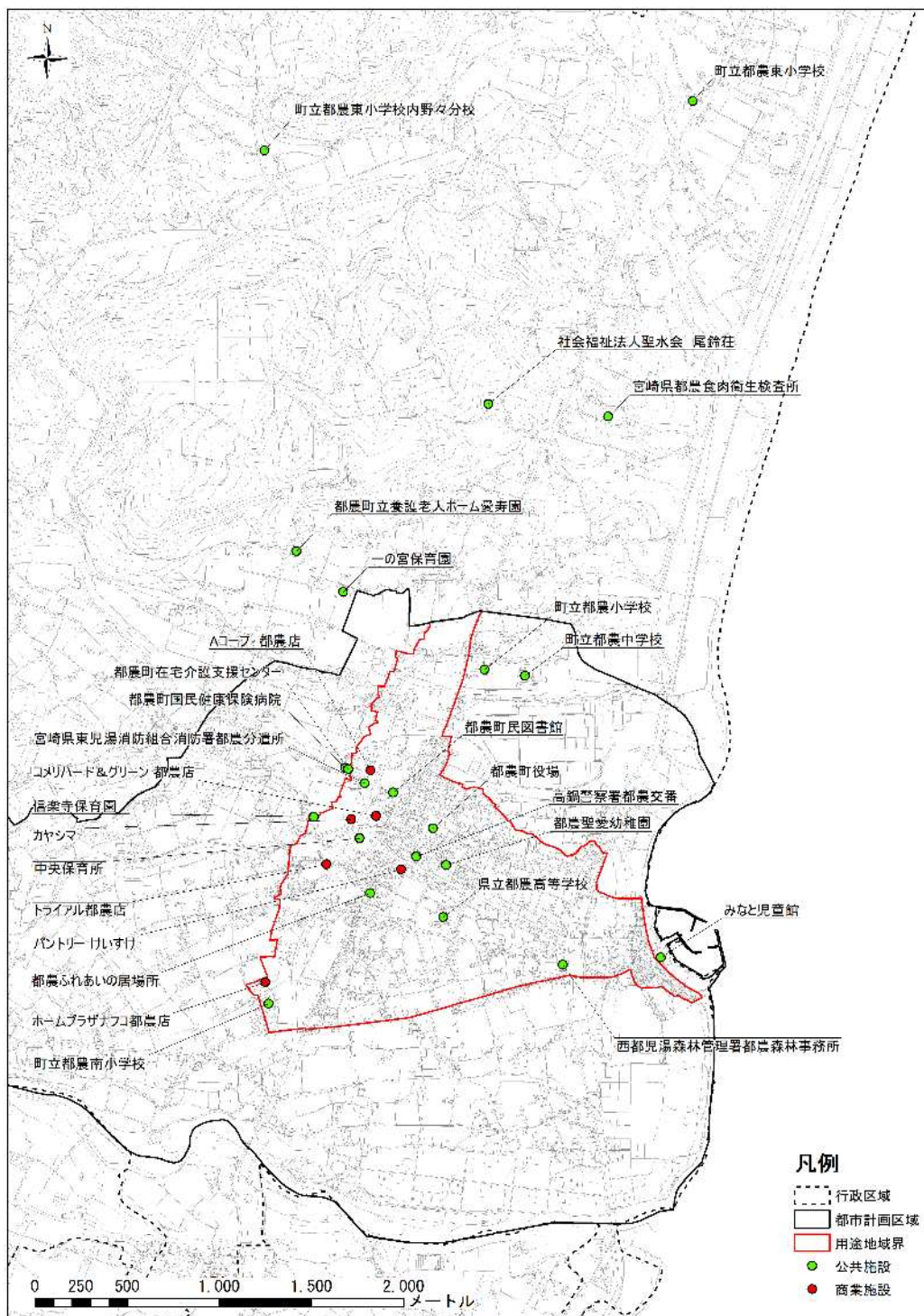
[資料：国土交通省 HP]

2-10 その他

1. 主要な施設の配置状況

○主要な施設の公共施設及び商業施設は大半が用途地域周辺に集積。

■主要施設の配置状況図



[資料：都市計画基礎調査（平成30年）、国土数値情報]

※商業施設は床面積1,000㎡以上を対象とする。

2. 観光資源

- 本町は自然観光資源、歴史的観光資源、その他観光資源が豊富である。
- 都農神社の夏祭りの風景も観光資源として残していくべきものである。

本町には、日本 200 名山に選ばれている尾鈴山や日本の滝百選に選ばれている矢研の滝など多くの自然観光資源が存在するほか、日向国一之宮都農神社、本陣赤木家などの歴史的観光資源、その他、都農ワイナリーや平成 25 年 7 月にオープンした「道の駅つの」など観光資源が豊富です。また、都農神社では「御神幸祭」と呼ばれ、神輿が都農町内を巡幸する夏祭り（祭事）が行われており、その風景は次世代に残していくべきものです。

■観光資源

番号	名称
1	尾鈴山
2	都農ワイナリー
3	日向国一之宮都農神社
4	不動公園
5	立野ウォーキングコース
6	本陣赤木家
7	カッパ塚
8	矢研の滝
9	道の駅つの

[資料：都農町観光ガイド]



都農ワイナリー



都農神社

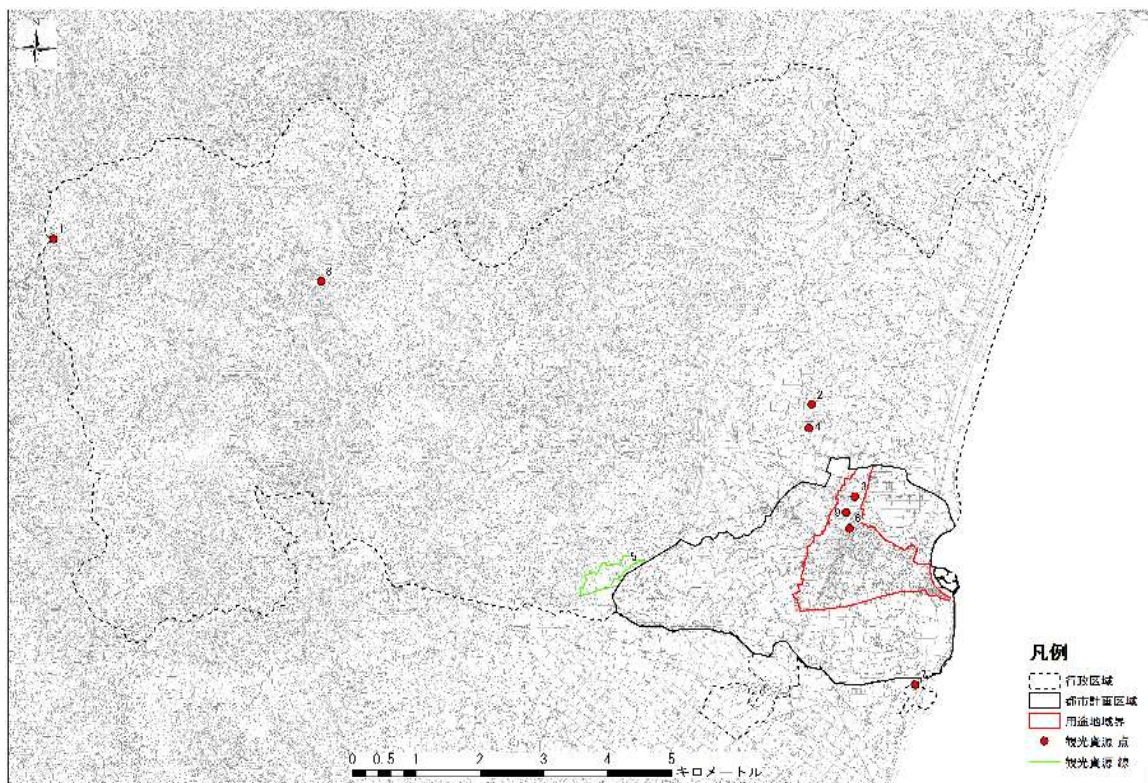


矢研の滝



都農神社夏の祭りの風景

■観光資源分布図



[資料：都農町観光ガイド]

3. 太陽光発電施設用地の状況

○本町内には太陽光発電施設が散見しているほか、リニア実験跡地には世界一長いソーラー発電所が整備されている。

本町では、太陽光発電施設用地として土地利用されている土地が散見しています。また、リニアモーターカー実験施設のガイドウェイ（高架）を活用し、宮崎県、都農町との官民パートナーシップにより開発されたメガソーラー発電所開発プロジェクトが実施されています。



リニア実験跡地のメガソーラー施設

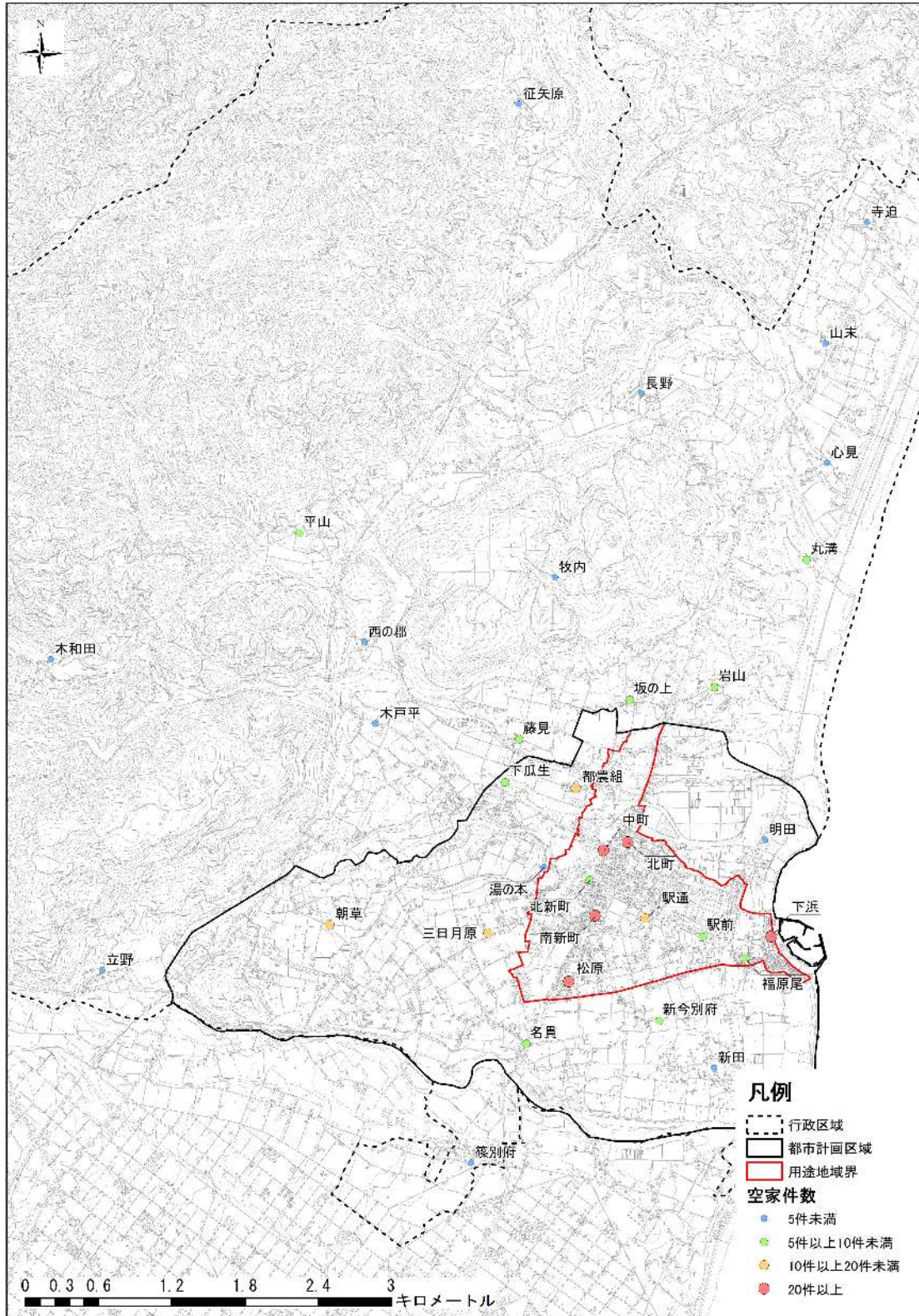
4. 空き家の状況

○本町内には約 400 軒の空き家が見られる。

本町独自の調査によると、令和 2 年 5 月時点で約 400 軒の空き家が見られます。

空き家の多くは、旧国道 10 号沿いの地区に分布しています。

■空き家の分布状況（各地区の空き家件数を公民館等の位置に表示）



[資料：庁内資料]